

グノーブルの授業は、 皆さんと私たちの合作。

- ◆「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- ◆皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。
- ◆授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- ◆演習直後の解説は、私たちと皆さんがやりとりしながら進みます。

明るく活気のあるグノーブルで、頭をフルに使う楽しさを実感してください。

大学受験 Gnoble 大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりとサポートしていきます。

中学受験 Gnoble 中学受験 グノーブル

難関私立国立中学を目指す小学生

先進のカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が子どもたち一人ひとりに向き合った集団授業を展開し、難関合格へ導きます。学習したい単元や志望校別のクラスが選択できるなど、個々の中学受験に適した受講スタイルを提供していきます。

個別指導 GnoLink 個別指導 グノリンク

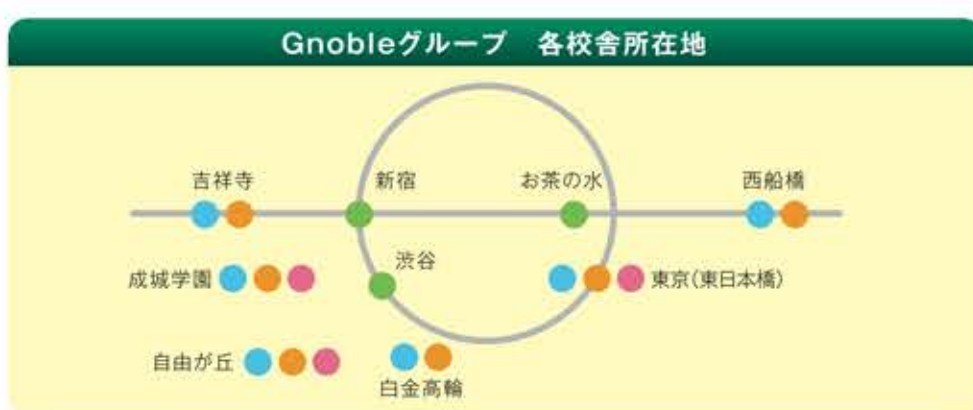
難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を引き出し、伸ばしていきます。グノーブルのテキストや他塾テキスト、市販の書籍等を使用し、学習状況に合わせた個別指導を提供します。また、中高一貫校の生徒の学内テスト対策、大学受験に向けた学習なども手厚くフォローします。

英会話 GnoKids 英会話 グノキッズ

0歳児から小学生のための英会話

楽しいゲームや歌、工作やダイアログなどの楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書く、4つの基礎力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、45分～90分間ネイティブの自然な英語に触れ、親しむことができます。ご家庭での学習にも配慮したオリジナル教材で、保護者の方とも一緒に楽しく学習できます。



Gnoble GROUP

大学受験 **グノーブル** 中学受験 **グノーブル**
個別指導 **グノリンク** 英会話 **グノキッズ**

グノーブル総合案内
www.gnoble.com

Gno-let vol.15

発行：株式会社富士教育出版社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-2
監修：グノレット編集部

GL 15-1506-1

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnoble

Gnoble グノレット G-let

保存版

vol.15

2015年6月発行

東大合格
特集号

医学部合格者
インタビュー併載



グノーブルを活かし
最大の効果を上げるヒント満載。
9期生の合格者インタビュー特集。

 Gnoble GROUP

CONTENTS

9期生 合格者インタビュー

- 東京大学 **文系** ……P1-18
- 東京大学 **理系** ……P19-33
- 国公立・慶應大学 **医学部** ……P34-47



2015年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

膨大な情報量になってはいますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所を印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていくときに大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分にあった勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんなときには、あらためてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気ももらえると思います。

2015年6月 グノレット編集部

今年度の東京大学合格発表はインターネット(レタックス)でのみ行われました。インタビューを実施した教室には番号掲示を用意し、東京大学合格の出席者にはご自分で番号を指していただきました。

9期生 合格者インタビュー

東京大学

文系

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



おがぼやし ひろたか
岡林 宏堯 さん
(文Ⅱ・開成)



おび まりな
小尾 真里奈 さん
(文Ⅱ・桜蔭)



かまくら まな
鎌倉 真奈 さん
(文Ⅱ・桜蔭)



こさか かいり
小坂 かい里 さん
(文Ⅱ・東洋英和女学院)



さいとう よしのり
斎藤 嘉紀 さん
(文Ⅱ・駒場東邦)



すぎもと はるか
杉本 悠 さん
(文Ⅲ・開成)



ひらい ゆういちろう
平井 裕一郎 さん
(文Ⅰ・筑波大附属駒場)



もり ひろな
森 裕菜 さん
(文Ⅱ・桜蔭)

Part 2



おおつ きろく
大津 毅朗 さん
(文Ⅱ・桐朋)



かぜはら ゆうご
風晴 友吾 さん
(文Ⅰ・駒場東邦)



くさの はるな
草野 遥菜 さん
(文Ⅲ・女子学院)



こだち まゆこ
小立 まゆ子 さん
(文Ⅲ・雙葉)



ごんどう ようすけ
権藤 陽祐 さん
(文Ⅰ・駒場東邦)



なかむら ゆり
中村 有里 さん
(文Ⅲ・雙葉)



はやしりょうた
林 亮太 さん
(文Ⅱ・筑波大附属駒場)

9期生 合格者インタビュー 東京大学 文系

Part 1

先生が私たち一人ひとりにちゃんと向き合ってくださっているのがよく分かり、「ここには、学舎(まなびや)の空気がある」って思いました。

鎌倉 真奈さん(文Ⅱ・桜蔭)

- 岡林 宏堯さん(文Ⅱ・開成)
- 小尾 真里奈さん(文Ⅱ・桜蔭)
- 鎌倉 真奈さん(文Ⅱ・桜蔭)
- 小坂 かいりさん(文Ⅱ・東洋英和女学院)
- 斎藤 嘉紀さん(文Ⅱ・駒場東邦)
- 杉本 悠さん(文Ⅲ・開成)
- 平井 裕一郎さん(文Ⅰ・筑波大附属駒場)
- 森 裕菜さん(文Ⅱ・桜蔭)

入塾のきっかけ

岡林: 中3の頃、英語に興味を持たなかったし、成績も悪くて、学校の友人たちに相談していました。そのうちの一人が中1からグノに通っていて、いい授業だと勧めてくれました。

斎藤: 僕の場合も友人の勧めです。高1の秋になる頃、3年ほど通っていた大手の予備校で英語の力が伸びていなかったし、どう勉強すればいいのかさえも分からなかったので英語のできる友人に相談して、それでグノを知りました。

小尾: 私もグノを知ったのは学校の友人からですが、ネットで調べてみたら、グノの先生が語源までさかのぼって英単語を解説している動画をYouTubeで見つけて、「これはすごい」と思って決めました。高1になる時でした。最初のきっかけは英語でしたが数学もいっしょにお世話になりました。

森: 私は中学の頃に、季節講習だけいろんな塾や予備校を体験していました。高1になって大学受験を考えて本格的に塾に入ろうと考えた時、一番気に入っていたグノにしました。グノのやり方なら、受験だけの英語じゃなくて、もっ

と長期的に役立つ英語が身につくと思えたんです。

説明会で、古文は受験学年になったらもうやれないので高1か高2のうちに仕上げておくといいという話を聞き、先生の人柄にも惹かれて古文も受講しました。高3では東大国語にも通いました。



岡林 宏堯さん(文Ⅱ・開成)

小坂: 2つ上の知り合いでグノに通っている人から勧められて、中1の後期から英語に入りました。小学生の頃からネイティブの先生が教えてくださる英会話教室に通っていましたが、中学に入ってから

らは、読んだり書いたりする力もつけられる塾がいいと思ってグノにしました。

鎌倉: 私は高2の夏から、まず数学でグノに入りました。以前通っていた大手予備校は、授業の進め方が私には退屈だったのです。グノの授業は雰囲気がとても良くて気に入りました。たとえば、大手の授業は時間通りに始まって、時間通りに終わりますが、グノだと先生が何分も前から教室にいらっしゃるし、延長もどンドンして、きっちり解説してくださいました。先生が私たち一人ひとりにちゃんと向き合ってくださっているのがよく分かり、「ここには、学舎(まなびや)の空気がある」って思いました。

その後受けてみた英語もやはり素晴らしい授業でした。実は、英語には少し自信を持っていたのに、クラス分けテストの結果は最上位のクラスではなく、これにはちょっとショックを受けて俄然やる気が出ました。

平井: 僕がグノに来たのは高1の4月ですが、きっかけは筑駒の先輩からの強い勧めです。ハーバード大に進学した風早*さん一家と家族ぐるみのおつきあいをしてい

て、「そろそろ英語の塾に行きたいんだけど」と相談したら、「絶対グノでしょ!」と強く勧めてくれたんです。授業を受けてみて自分でも、「これは間違いない」と確信しました。英単語を成り立ちから説明してもらえとか、英文法もネイティブの人の感覚から教えてもらえるとか、とにかく授業内容にとってもインパクトがありました。僕の場合、下のクラスから入ったので先生がしょぼいかもと心配しましたが(笑)、全然そんなことはなくて、すごい熱意を持って向き合ってくださったことに心から惹きつけられました。

杉本: 僕の場合は自発的に入ったわけではありませんでした。中1の9月に学校での英語の成績が悪くて、心配した母親にグノのテストを受けさせられました。その時点ではかなり英語に遅れをとっていたのですが、担当だった先生がずっと個別にも見てくれて、中1



小尾 真里奈さん(文Ⅱ・桜蔭)

の終わり頃には周りの人に追いつけました。グノでは、最後まで、どの先生からも丁寧な指導をしてもらえました。特に、毎回の授業



鎌倉 真奈さん(文Ⅱ・桜蔭)

で個別添削を受けられたのは、実はすごいことではないかと、とても感謝しています。

学校での評判

杉本: 開成ではグノの英語の評判は定着している感じです。

岡林: 僕らの代は、特にグノに通う人が多かったと思います。部活を引退して本格的に勉強する時期にはグノで英語を勉強する人がどんどん増えました。

斎藤: 駒東生は歴代グノに通っている人が多くいますが、僕のイメージでは、英語に苦手意識を持っていた人がグノで成績を上げ、その評判が広がって、受験学年ではグノは駒東生だらけという状況でした(笑)。

小坂: 英和生もグノの英語に通っている人が本当に多くて、どの人もグノが大好き過ぎて、「グノーブル、愛!」という感じでした(笑)。学校ではいつもグノのことが話題になっていましたし、「授業でこんなことをやった」と、ノートを見せ合うことも当たり前でした。「愛とやる気を感じ

させてくれる塾!」それが私たちの学校での評判です(笑)。

森: 桜蔭の場合は私たちの代からグノ生が一気に増えたと思います。授業を振り替えた時などに同級生を偶然見つけて、「あれ、うちの学校こんなにグノ生がいたんだ」と思うようなこともありましたが、私たちも皆「グノの先生大好き!」という感じでした。英語に加えて数学をとっている人も結構多かったと思います。

平井: 筑駒でも、グノで数学を習っている人が活躍していたので、「グノは数学もやっぱりすごい」と言われていました。もう英語だけの塾という感じではありません。僕は国語もグノでお世話になりました。

鎌倉: 私も英数国ともグノに移って満足していたので、桜蔭生を何人もグノに誘いました(笑)。高2くらいになると、他塾や予備校での勉強に疑問を抱き始める人が結構いるんです。

小尾: 特に高2の冬にグノに移る人が多くいました。受験が具体的に見えてくると、「本当にこのままでいいのかな?」と真剣に考え



小坂 かいりさん(文Ⅱ・東洋英和女学院)

*風早智孔(かざはや ともなる)さん。筑駒出身、グノーブル6期生。Gno-let vol.10、vol.12に寄稿していただきました。

始めるからだと思います。

岡林: グノは授業の振り替えができるため、部活と並行して学びやすいという評判も大きかったと思います。やっぱり部活をやっている人にとっては振り替えできるのは大きなメリットです。他の塾だと部活に出るか塾に行くかどちらかを選択しなくてはなりません。グノの場合はどちらも犠牲にしないで済みます。学校行事などでも同じです。

グノーブルの英語

岡林: 語源から英単語を学ぶとか、返り読みせずに語順のまま理解していくとか、グノの英語は実践的です。グノ以外の人は単語帳を覚えたり、構文をいちいち解析しながら訳したりと、面倒くさい過程があってようやく長文にとりかかるので、受験期になっても長文がなかなか読めない人も周りにはいました。グノの場合、長文を読みながらその中で英単語も覚えていくし、前から解釈していくためのやり方として文法を身につけていく塾なの

で、実用的な英語力につながったと思います。

小尾: グノに入るまでは、構文解析をして後戻りしながら英文を訳するのが普通だと思っていました。前から語順のままに解釈していくやり方はグノに来て初めて教わって、それは衝撃的でした。

演習したその場で添削してもらえて、すぐに解説が受けられる授業の形式にも驚きました。家で予習をして塾で解説を受けるのが当たり前だと思っていましたが、グノの場合は、最初に演習できるので、真剣に英文に向かえるし、解説にも集中できたので理解も深まりました。

小坂: 前から意味をとっていく習慣を中1からしっかり身につけられたのは本当に良かったと思っています。ネイティブの人たちは、この語順で論理を組み立てているのですから、この語順に慣れていないと複雑な話にはついていけなくなると思います。

私は高1の夏から留学していましたが、読むことも書くことも、アメリカでの授業で困ることは一切ありませんでした。グノは受験塾ですけれど、本場の英語にも対応できる力が培える塾だということを実感しました。アメリカで最初にもらった教科書が苦もなく読めたときには、「グノすごい！」って本当に思いました(笑)。

斎藤: 英単語の解説も実践的だと思います。それまでは単語の意味を日本語との対応で覚えるというやり方で、そのやり方には限界も感じていました。グノでは語源から理解できます。先生がある単語の根幹からどんな風に意味が派生していくのかを解説してくれたり、ときには「aboutはこんなイメージ」と黒板に絵を描いてくれます。「takeのイメージはこうです」と、身振り手振



杉本 悠さん (文Ⅲ・開成)

りでやってくれることもあります。このやり方にはインパクトがあって引き込まれましたが、文脈に合わせて柔軟に意味を理解することができるようになりました。

あと英文要約を高2の冬から毎週やる塾というのは珍しいんじゃないでしょうか。要約の訓練を積み重ねていくと、どんな英文に当たるときにも主旨をつかみながら読むのが習慣になります。的確にそれができる感覚が自分の中で育つと、「長い英文でもどんどん読める」という手応えにつながって楽しかったし、当然、東大の本番にも自信を持って臨めました。

鎌倉: グノでお勧めの音読の習慣化もすごく役立ちました。他でも音読を勧められましたが、教材が面白くなくて、やる気は起きませんでした。グノでは洗練されている英文を用意してもらえたので、自発的に「やろう！」と思えました。その効果はいろいろありますが、一番嬉しかったのは発音が良くなったことです。同級生から「帰国子女かと思っていた」と言われたことがあって、お世辞かもしれませんがすごく嬉しかったです。

森: 音読はやればやるほど、英語がスラスラ発音できるようになって楽しくなります。ネイティブの人は返り読みなんてしないので、英文を前から意味をとっていくのは理に適っていると思います。英語の語順に慣れる一番の近道が音読です。読むスピードも格段に上がりました。

でも、いくら効果があると言われても内容が面白くなければやろう



平井 裕一郎さん (文I・筑波大附属駒場)

という気にはなりません。グノでは、時事的な話題から科学や哲学に到るまで幅広い英文を先生が用意してくださったし、内容の深いところまで具体例を出してお話しくさるので、自分一人で読んだら「ん？」と思う難しい文章でも、解説を聞くと途端に楽しめる英文に変わりました。解説を思い出しながら音読するのもすごく楽しみでした。英語以上のものもいろいろ吸収できたと思います。

グノの教材は、私にとって心の支えとしての役目もありました。英文の中には、日々の生活で物事との向き合い方や人生観のようなものを扱ったものもあって、それを読みな

がら、特に直前期には心が休まるようなこともありました。私にとっては、グノの英語はただの受験科目ではありませんでした。

杉本: 僕は中1からグノにいたので、グノのやり方が当たり前だとずっと考えていました。英文を前から解釈することにしても、英単語の語源を踏まえたイメージを身につけていくことにしても、グノで学ぶことは英語を勉強する上でごくごく自然なことだと思っていました。毎週、豊富な英文に触れるというやり方も普通のことだと思います。むしろ他がなんでグノのようなスタイルでないかの方が疑問です。

平井: アウトプットのことも言っておきたいと思います。僕は直前期に別の塾の演習会を受けたことがあります。すべての教科を解いてその日のうちに解説という形式で、その時初めて他塾の英語の解説を受けました。模範解答の英作文を見て愕然としました。それは日本人の考え方に沿った展開のまま英語になった文だったんです。文法的には正しくても、ネイティブの人は絶対にこうは書かないと僕にも分かりました。

グノでは、「ネイティブならこう発想して、このように論理を組み立てる。これが英語の考え方だ」と教わります。つまり、言葉によって考え方も決まってくるということまでグノでは学べました。

英語の楽しさ

岡林: グノは音声教材も充実していて、それをお手本にして音読しているとリスニング力も間違いなく上がります。語順にも慣れるし、英語の音にもなじむので、生の英語を瞬間的に聞きとることができるようになります。高3の頃にはCNNのニュースをよく見てい

ましたが、そのまま内容を理解できるまでになっていました。受験勉強という枠にとらわれずに、情報を手に入れる道具として英語を使えるようになって、ますます英語が楽しくなりましたし、これはグノに通ったお陰です。

小尾: グノでの英語の勉強は、もはや受験勉強ではないと思います。扱う英文もさまざまな範囲に渡っているのでも毎回刺激をいただけますし、先生の解説も広くて深いので、グノでやっていることの先には広い世界がある感じがしました。とにかく通うのが毎回とても楽しみでした。

鎌倉: 受験に目を向ける仕組みもちゃんとあるところがすごいと思います。たとえば、先生に添削してもらえるので、演習の最初から集中できます。返ってくる添削の結果を見るのもドキドキします。手応え通りの結果でなければ悔しいし、いいコメントが書かれていると嬉しさが込み上げてきます。黒板には先生がその日の成績分布を書いてくださいますが、負けず嫌いの私はそれを見て、翌週に向けて復習のモチベーションを上げ



森 裕菜さん (文Ⅱ・桜蔭)



斎藤 嘉紀さん (文Ⅱ・駒場東邦)

ていました。演習の時間が短めだったので、時間配分を考えながらどれだけいい解答を出せるかもゲーム感覚で楽しんでいました。大手に通っていたときにはやる気を上げるのにとても苦労していましたが、グノの授業ではそんな苦労はまったく必要ありませんでした。

森：グノっていい意味で受験塾ではないと思うんです。他の科目で他塾にも通っていましたが、そこに行く日はちょっと落ち込みました。普通の受験勉強は、辛いことでも我慢して続けるものという前提があるからだと思います。でも、グノの日は気分がまるで違いました。私にとってのグノは、夢中になれるから長時間でも続けられる場でした。



岡林 宏堯さん (文Ⅱ・開成)

授業ではいつも楽しい英文が待っていました。設問がまた絶妙で、設問を考えることで読み方が深くなったり、「あ、こういうことか」と気づかされることもありました。先生の解説を聞くとまた新たなものが見えてきました。

過去問の扱いも、普通だと、東大の何年の問題だからという与えられ方になると思いますが、グノの場合、面白いテーマの英文として読んでいたものが、実はそれが過去問だったということもあって、



小尾 真里奈さん (文Ⅱ・桜蔭)

知らない間に過去問にも触れられました。

先生たちが毎回楽しそうに授業をされるのを見ながら、先生自身、学ぶことが好きなんだと感じていました。学ぶことは楽しいことだと思えたので、グノに通うことを億劫に思ったことは一度もありません。自分で英語の勉強に向かうときも楽しい気持ちになれましたし、模試でも本番でも英語は楽しく向かえました。

小坂：英語力を上げていただけることで、読めなかったものが読めるようになっていくのは間違いなく楽しいことでした。その上、先生が解説を通して、それまでなかった視点を与えてくださったので視野も広がりました。見たこともない世界も垣間見えました。新しい考え方の道筋も教えてもらえました。特に高3の4月くらいからは、「英語を勉強しに行く」というより、自分の可能性を広げられるのが楽しくて、そのために通っていたようなところが私にはありません。

グノって不思議な塾で、演習の結果が良くても悪くてもやる気が出ました。先生に Very Good! というようなコメントをもらえれば嬉しいのですが、うまく点がとれなくても復習が楽しみでした。

先生も「がんばって解説するから、うまくいかなかったことを自分の力に変えてください」と言いながら解説を始めるんです。学べるものがたくさんあると思って、たくさん音読して復習していました。

斎藤：音読を真剣にやっていると発信力もつきます。英語の表現がたくさん頭の中に残って、英作文をするときにはそれが自然に出てくるようになりました。自然に出てくる表現が増えるにつれて書くことがどんどん楽しくなりました。

平井：教材の鮮度が高いんです。数日前の出来事が教材になっていることもよくあって、しかも先生が背景まで深く解説してくれるので、教室にはいつも濃い時間が流れていました。学校でも、「あの話だよ、あの話」と、グノに通っている友達の間でよく授業を振り返って楽しんでいました。

ただ、グノで扱う英文は易しくありません。それを何とか噛み砕いていこうとぶつかっていくうちに力が伸びたのかなと思います。先生の解説はいつも明快だったので、内容が未消化に終わることは絶対にありませんでした。それが挑戦していくやる気にもつながっていました。

杉本：グノの英語は僕が独自にやっていた英語の触れ合いと相互的でした。中3の時にイギリスが大好きになって、毎日イギリスのテレビ番組を見て、ネットでもガーディアンやデイリー・ミラーにアクセスしていました。そこで学んだことをグノの英作文や読解に活かして、グノで学んだ新しいことは、テレビやネットを見る時に活かしていました。イギリス人の先生に英会話も習っていたので、グノで学んだことをすぐに使ってもらいました。グノで学ぶ英語は本物だし、

今の生きている英語なんだということもいつも実感していました。

英語の伸びを感じた時期

岡林：僕は中3から入ったわけですが、高2の終わりまでは部活を理由にしてあまり復習をしていませんでした。ところが、部活が終わりに近づいたときに、部活に真



鎌倉 真奈さん (文Ⅱ・桜蔭)

剣に取り組むのと同じように勉強もしっかりやろうという気持ちが芽生えてきました。グノの復習をしっかりやり始めたら英語の力も伸びました。

グノの先生は優しいし、いつもいい授業が受けられるので、もしかすると受動的になる人もいます。でも、本当に伸びるためには主体的な気持ちになることが必要だと思います。グノは教材もいいし先生方もいつもいい解説をしてくださるので、積極的にそれを自分のものにしていこうと思う気持ちがあればちゃんと伸びると思いました。

小尾：自覚したところから英語の伸びを実感したのは私も同じです。高1の頃は部活に力を入れていて復習ができていませんでしたが、高2で受験を意識して復習に力を

入れ始めたら模試にすぐに効果が表れました。ただ、グノの中ではなかなか上位にはいけませんでした。

森：グノにいと、周りのレベルは高いし、授業ではいつも課題がたくさん見つかるので、「もっと頑張らなきゃ」と、私もいつも感じていました。

でも、模試でグノの外に出てみると、「自分は意外とできる」と思えることが度々ありました。やはりハイレベルな環境に身を置いていたことで、甘んじることなく頑張り続けられたんだと思います。

斎藤：僕は2回伸びを感じたことがあります。最初は、入塾して半年ほどで模試の成績がグノと上がった時です。グノの授業を受けて一通りの復習をすれば誰でもある程度の力がつくと思います。

2度目は受験が迫ってきた時です。それまでにグノで扱った英文をすべて復習して、毎日の音読を休まない自分で決めてやり続けていたら、グノの授業中の演習が時間内に終わるようになりました。英語がすらすら読めるようにならなりました。演習時間内にすべて解き終わるとするのは大きな目標だったので、これは本番の前に自信につながりました。

鎌倉：私の場合はテストの成績以外で伸びを感じました。さっき高3の夏頃に発音が良くなったと言いましたが、同じくらいの時期に英語の歌とかミュージカルの歌詞が聞き取れるようになったんです。最初はちょっと劇的でした。あるミュージカルのセリフが突然耳に飛び込んできて、「あ！授業でやったあの表現！」と思えたんです。

小坂：英語に抵抗を感じなくなったことは大きな収穫です。高校生になった辺りからは、評判になっ

ている本を原書で読むのが当たり前になりました。翻訳は翻訳者の意図が入り込んでいますが、私は作者の言いたいことを直接理解したかったし、英語なら読めるからと、普通に原書を手にとれるようになりました。

平井：振り返ってみると確かに伸びてきていると思います。でも、どこかの瞬間に伸びたという実感は僕にはありません。実感できなかったということは、常に上を見ていたということなのかとも思います。

グノに行けば、全国模試で上位に名前が載っている鎌倉さんや小坂さんのようなすごい人たちがいて、その先には先生方がいて、「あの人たちがみたいになれたらいいな」と常に思わせてくれるような環境があったのが有難かったです。でも、ただの成績を取り合う競争だったら相手のようになりたいとは思わないと思います。この塾にはもっと価値のあるものを目指して互いに高め合いたいと思える空気があったと思います。

杉本：身長が伸びている時に自分では意識していませんが、振り返って見てみれば、中1の時と今の僕の身長は20センチ違っています。先日、中1でお世話になっ



小坂 かい里さん (文Ⅱ・東洋英和女学院)



齋藤 嘉紀さん (文Ⅱ・駒場東邦)

た先生にお会いしたらものすごくびっくりされてしまいました(笑)。

ただ、本当の意味で成長するためには、体にいい食事が必要なのと同じで、いい授業を受けていなければならないと思います。

グノでは毎回添削をしてもらえて自分の課題にも気づけたし、先生に毎回用意してもらえる演習教材は、いわば僕たちが向かう指針にもなっていたのだと思います。

確かに外の模試を受けると数字が出て、数字が出るとそれなりに嬉しくはありますが、内心では分かっているんです。こんなテストで点がとれてもあんまり意味ないよなって。いかに点数を上げることがかかっていうところではない英語力をグノでは伸ばしてもらえたと思っています。

グノーブルの数学・国語

岡林：高1からは数学もとりました。これは声を大にして言いたいのですが、数学もグノは素晴らしいです。学校では数学は他塾に通う人ばかりでしたが、グノの数学にはどの塾より優れている点があります。

先生が一人ひとりをよく見てく

ださって、ほぼすべてを把握してください。ひとつ相談すると十の答えが返ってくるという感じでした。先生たちがこれほど親身になってくれるところは他にはまずないので、数学が苦手な人にも得意な人にも、グノは最適です。

僕はもともと数学が好きだったということもあってどんどん先に進みたいと思っていましたが、授業全体の進捗とは別の問題を先生が用意してくれました。授業時間外でも、先生はこちらが驚くほど根気よくつきあってくれるので誰もが満足感を得られると思います。

小尾：テスト演習での添削は感涙ものです。一人ひとり、赤いばいになるまで丁寧に添削してもらえます。数学が苦手な私でも挫折することなく最後までついていくことができました。質問にも行きやすく、大手ではありえないほどきめ細かく見ていただけました。

鎌倉：私も高2の夏期からグノの数学に移りました。それまで、何度聞いても分からなかった逆像法が、グノの先生の説明で一気に明快になりました。やっぱりグノの先生は私たち一人ひとりに向き合ってください、私たちが理解できるように一生懸命になってくださるところが違うのかもしれない。

平井：僕は高3で東大国語を受けていましたが、一人ひとり個別の対応をもらったのは国語も同じでした。僕の場合は、古文と漢文に難点を抱えていましたが、そこについては先生の方から声をかけていただいて指示をもらえました。

現代文に関しては、問題文の解析では終わらないところがグノの特長でした。難解な文に使われている論理関係を先生が鮮やかに解説してくれて、僕たちが別の文で

その論理をちゃんと見抜けるところまではいけません。まして、それを使って文が書けるところまではなかなか進めません。グノでは、表現するという本質的な部分を常に大事にしていて、それは考え方の成長にまで影響することでした。

小坂：高3で私も東大国語をとって、先生がお持ちの考え方を私に伝授していただけたと思っています。以前から本を読むことは好きでしたが国語という教科は苦手でした。文章との向き合い方が分かっていなくて、自分の中の勝手な思い込みや想像に合わせて解釈しようとしていたのかもしれない。

グノの授業で、常識や素養も鍛えてもらえまし、書き手の意図を冷静にすくい上げていくやり方も私の中に備わった感じです。

森：私は高1で古文をとりました。授業も先生も噂通り楽しいものでしたが、私が一番思ったのはグノの指導方針の統一性です。古文の単語を学ぶ時も英語と同じように語源までさかのぼって分解して教えてもらえました。グノの英語で慣れてきた私にはすごく分かりやすかつたし、知識が定着しやすかつたです。

高3の東大国語で良かったのは柔軟性です。月ごとに現代文、古



杉本 悠さん (文Ⅲ・開成)

文、漢文とやるので、私にとって必要な古文と漢文だけとりました。他科目の勉強計画との調整もでき、古文、漢文に対する不安も解消できてよかったです。

鎌倉：私は数英の経験からグノの信奉者になっていたのですが、高3春から国語にも入りました。良かったのは高校生が書ける答案例を示してもらえたことです。模試などだと、とても高校生では書けないレベルの解答例が示されますが、グノでは、「これならもうちょっと磨けば書ける」という答案とその書き方を示してもらえたので、とてもためになって、アウトプット力がすごくついたと思います。

先生、および、グノーブルの特長

杉本：英単語の意味は点ではなくてある範囲を持っていますが、視覚や聴覚などすべてに訴えてくる授業だったので、そのニュアンスを自分のものにしやすいです。

解説は機知に富んでいて、知識の翼がさまざまな方向に飛んでいき、話術も巧みで、僕はそんな先生に憧れてもいました。熱意とか、知的なところは、グノの先生全員に広がっていると思います。

それから、グノの教室はいつもきれいでした。ゴミが放置されていることもなく、気持ちよく授業に参加できました。

授業前に軽食を食べていてもいいし、授業中には飲み物を飲んでもいいんですけど、「焼きそば不文律」というのがあって、別に焼きそばに限らないんですが、みんなが気持ちよく集中できるように、臭いが強いものは避けることになっていて、生徒全員が何となく守っていると思います。僕は、そういう自治的というか、思いや

りというか、グノのそういうところが好きです。

平井：先生の熱意をいつもひしひしと感じていました。もし熱意がなければ、添削のときに一人ひとりにコメントをつけたりなんて、とてもできないと思います。

それから、教室が汚いことをまず見たことがありません。先生たちが小さなモップみたいのを持って掃除されていますよね。他の塾だと、消しカスなどが机に残っていることもあって、ちょっとスタートから調子が崩れてしまいません。蛍光灯が切れているのを見たことがないし、蛍光灯の数も多いから教室が物理的にも明るくて、



平井 裕一郎さん (文I・筑波大附属駒場)

雰囲気も明るくて、その中で先生と生徒が調和していて、授業が協同でつくられていくことが魅力なんだと思います。

齋藤：一人ひとりを見てくれるのがやはりとても印象的でした。高3の英語だと曜日やクラスによってはそれなりの人数がいることあるのに、それでも先生方は変わることなく一人ひとりを見てくださっています。体育祭後に、先生に勉強のことで相談に行ったら、本当に的確なアドバイスをさっと返して下さって感動した

ことがありました。

小坂：英語の先生も国語の先生も、私たち以上に勉強されているなと思っていました。既にすごい教養をお持ちなのに学ぶ努力を絶えずしていっていらっしゃるという印象がありました。私も受験で辛いなんて言っていられないとモチベーションが上がりました。それから、どんな質問を持って行っても、必ず真剣に聞いてもらったのもグノの先生に共通していたことです。

高3になってすぐの先生の言葉が忘れられません。「すごい人たちが周りに現れたとき、そこで自分と比べて落ち込まずに、こんな環境は有難いと思って勉強しよう」とおっしゃったんです。グノでは周りにすごい人がたくさんいて、「私は大丈夫なのかな」と思ったこともありましたが、その言葉を聞いて気持ちが晴れて、それ以来あまり落ち込むこともなく勉強に向かうことができました。

森：多方面に渡る教材を、グノの先生ほど高校生にも分かりやすく、いろんな具体例を挙げて解説できる先生はいないと思っていました。毎回、英文を通して英語以上のことを学べるんです。私たちがなるほどって思えるから英文の内容が自分のものになるし、その話が楽しくて興味深いのでどんどん復習する気にもなるんです。

授業は2時間設定ですが、2時間で終わることは絶対なくて必ず延長になります。先生の方こそ疲れているはずなのに、こんなに熱心に解説してくださる塾はまずないと思います。時間を忘れるくらいに面白い授業なので、延長が辛かったことは一度もありませんでした。

鎌倉：グノの先生は、私の知っているどの環境よりも、授業のクオ

リティは高く、生徒一人ひとりのことをしっかり見てくれていました。大手にいたときには、「この先生は授業をしていて楽しいのだろうか」と思うこともありましたが、グノでは、先生方と私たちがいっしょに授業を作っていると思えることがとても良かったです。

小尾：数学の先生や、お帰り問題のときの英語の先生は、私たちが手を挙げると本当に走ってくるんです。過去の授業のこともよく覚えていらして、「この単語は冬期講習でやりましたね」などと指摘されるし、ときにはそのときの文ごとすらおっしゃるので、私の方も「しっかり復習しなきゃ」と刺激をいただいていた。

岡林：どの教科の先生も教科の枠を超えた勉強方法を教えてくださいました。数学の先生からは俯瞰的な視点を養った上で体系的なアプローチをするやり方を教わりましたが、このやり方は歴史にも応用できました。

逃げないようにすることが大切だと思います。コンマ数点で合否が変わってしまうのですから、受験には運も必要ですが、運がある人というのは大抵自信がある人です。その自信をつけるためには普段から苦手なことに目を背けずにしっかり勉強することだと思います。

それから、大学受験はあくまでも人生の過程だと思います。そこをゴールにしてしまうとそこで燃え尽きてしまいます。僕は東大に入ってからアクティブに生きていこうと思っていたので、今やっていることがどのように大学生活に活かせるだろうかという視点を持って受験勉強をしていました。



森 裕菜さん(文Ⅱ・桜蔭)

伸び悩んでいた時期がありました。勉強のやり方を見直して工夫したら伸びるようになりました。必ずしも勉強時間とその効果は比例しないと思います。

中学・高校で、いわゆる有名校に入っていたとしても、僕たちに自学力があるということが証明されているわけではありません。自学力を高めるのが受験期間だと思うので、試行錯誤しながら、自分と向き合って自分に合った勉強のやり方を工夫するのが大切だと思います。

小坂：自分の学力と合格するために必要な学力を比べて、逆算してみてもどのくらいの配分で勉強して行けばいいのかの計画を立てるのがいいと思います。配分が分かったなら、あまり気負ったり落ち込んだりせずに、淡々と勉強すべきだと思います。ときには信頼できる先生に遠慮なく相談すればいいと思います。あとは、目の前の授業を100%の気持ちで受けて、100%の気持ちで復習していけばいつの間にか「あ、イケてるわ」となると思います。

小尾：高3の時、学校の先生に「志望校はこれでいいの？」と疑問視されるほどだったのですが、それでも最初の志を変えなかったことが良かったと思っています。

あと、私には得意科目と言えるものがなくて、「どこで点をとれるんだろう？」と不安になっていたのが、早いうちから得意科目を作っておくといいと思います。

鎌倉：「丁寧に」ということと、「先生を信頼しよう」ということです。丁寧にというのは授業にしっかり集中し、分からないことがあったときには納得いくまで理解しようとする姿勢で取り組もうということです。先生を信頼する

というのは、それで授業への集中が増して、得られるものが多くなると思います。

森：気負い過ぎずに気楽に構えることが大事だと思います。私の場合は直前期でも晩御飯とお風呂に

ゆっくり時間を使っていましたし、テレビも普通に見ていました。そのお陰で、「受験に自分のすべてがかかっている」などと思うこともなく普段の力を発揮できたと思います。

直前期は合否を考えながら勉強しているとキリがないと思います。今の積み重ねが未来につながることを信じて、目の前にある勉強と楽しみながら向き合うことが大事だと思います。

9期生 合格者インタビュー 東京大学 文系

Part 2

頭で意識しなくても巧みにできる状態になっているのを技能というらしくて、グノでは、まさに技能としての英語を鍛えていると思います。

大津 毅朗さん(文Ⅱ・桐朋)

おおつ きろう
大津 毅朗さん(文Ⅱ・桐朋)
かぜはれ ゆうご
風晴 友吾さん(文Ⅰ・駒場東邦)
くさの はるな
草野 遥菜さん(文Ⅲ・女子学院)
こたち こ
小立 まゆ子さん(文Ⅲ・雙葉)
ごんどう ようすけ
権藤 陽祐さん(文Ⅰ・駒場東邦)
なかむら ゆり
中村 有里さん(文Ⅲ・雙葉)
はやしりょうた
林 亮太さん(文Ⅱ・筑波大附属駒場)

先輩たちにアドバイス

杉本：これはあくまでも僕のやり方ですが、メリハリをつけることです。たとえば塾の授業に出ている時は本気でやって、息抜きの際は直前期でも家でゲームをやっていました。

僕の場合は教科にもメリハリをつけて絞っていました。たとえば数学は通常授業が終わってからはほとんど何もやりませんでした。しかし、他の科目は日本一をとれるくらい頑張りました。苦手科目を克服する時間があったら得意科目を突き詰めるために時間を割くということでしょうか。

岡林：僕の場合は、苦手科目から

平井：僕自身が理想的な受験生ではなかったことなので言えることですが、僕が進学する文Ⅰをねらう人の中には、すごく勉強熱心な人や、あり得ないくらい頭のいい人がいます。でも、僕自身は尻込みすることなく受験して良かったと思っています。今の成績が思わしくないから志望を変えようとするのは、現役で入れたとしても一生後悔すると思います。

斎藤：自分にあっている正しい勉強方法を見つけることが大事です。僕の場合には、頑張っていたのに

入塾のきっかけ

中村：中学入学と同時にグノに入りました。最初は数学だけでした。小学生の時に算数が苦手で、きっと数学も苦戦するだろうと思っていました。帰国子女だったので英語は高2から入りました。

草野：私は中2の冬です。同じマンションに住んでいる方で兄弟とも東大に通っている方がいらして、お二人ともグノだったんです。そのお母さまが私の母にグノを勧めてくださいました。私も説明会に来てみて気に入りました。英語は

得意ではありませんでしたが好きでした。勉強するなら受験だけで終わらせるのはもったいないと感じて、グノは受験レベルよりも高い次元の英語を学べると聞いたので入りたと思いました。

林：中3の冬に友人にグノのことを教えてもらって入りました。英語に苦手意識があって、学校の成績も上げたかったし、大学受験に向けて準備も始めたいと思っていました。英語を基礎から教えてもらえるEGGS*という講座があったので選びました。数学に入ったのも同時期です。



大津 毅朗さん(文Ⅱ・桐朋)

*English Grammar Green Session for newcomers 英語が苦手になってしまった一般生のための、英文法の基礎を補完する講座。

権藤：高1の夏期講習でした。中学の時には勉強不足で英語の成績があまり良くありませんでした。高校に入って大学受験を意識し始めた頃、知り合いがグノに通っていて、「すごくいい」という評判を母が聞いてきて勧めてくれました。



風晴 友吾さん (文I・駒場東邦)

小立：私は比較的遅くて高2の冬からです。大手の塾に通っていて英語は得点源でしたが、さらに伸ばしたくてグノに移りました。その頃、グノに通っていた友人にグノの教材を見せてもらって内容に手応えを感じ、「ここでやったらもっと伸ばせる」と思ったのがきっかけでした。

風晴：僕も高2の冬期講習からです。文Iに入りたいとは思っていましたが、とてつもなく成績が悪かったんです。学校で周りを見渡してみたところ、英語の成績がいい人たちはほとんどがグノだと分かり、なら自分もと思ってグノに入りました。授業の内容までは聞いていませんでしたが、皆、楽しそうに通っていたので、「ここな

らいいかな」と思いました。

大津：僕はもっと遅くて高2の1月からです。グノのカリキュラムだと新高3の最初です。それまで自分の評価では英語はできる方で、学校の成績も良い方でした。どうせ塾に入るのならレベルの高いところでやりたいという思いがありました。

同じ時期に他塾の授業も体験してみました。そこの先生は、生徒がつまらない間違いをすると叱るタイプでした。グノでは、間違えても叱られることはなくて考え方を丁寧に教えてくれます。先生がすぐに名前を覚えてくれたし、伸び伸びやれそうなのでグノに決めました。

中村：先生と生徒の距離が近いというのはグノの代名詞のようになっていると思います。

権藤：先生が生徒の名前を覚えるようなことは他塾ではあまりないと思います。

小立：私が以前通っていた大手塾は、教室に200人くらい入るところで、授業も先生の一方通行でした。質問に行っても30人くらいの列に並ばなきゃならないという状況だったので、同じ塾とは言ってもグノとは別物でした。東大を意識した勉強だと添削をいただけることも大事なのでグノに移って正解でした。

学校での評判

林：うちの学校は東大専門塾の人が多いため、グノに通っていた人は10人から15人程度だと思いますが、でも、やっぱり、グノに通っている人は英語ができると言われていました。

大津：桐朋では名前を言っても知

らない人も随分いました。学校が国立市にあるため都心の学校に比べると知名度は低いかなと思います。

草野：女子学院でグノを知らない人は多分いなかったと思います。私みたいに早くからグノに入っていた人がどんどん周りに広めていたので、講習になると新しい人がたくさん来て、その人たちが気に入って残って、という繰り返しで、この学年にはたくさんJG生がいました。

風晴：駒東生もたくさんいました。休み時間になると、グノの話で盛り上がりだったり、先生のモノマネも流行っていました。授業の良さはもちろんですが、「グノは楽しい」という印象を皆持っていたと思います。

権藤：僕はグノに入ったのは結構早い方だったので、周りからグノの印象について聞かれることが随分ありました。僕が真っ先に言っていたのも「楽しいよ」ってことでした。

小立：雙葉も私たちの代から増え始めたと思います。もともとは少



草野 遥菜さん (文III・女子学院)



小立 まゆ子さん (文III・雙葉)

なかったのですが、私が入った高2の冬から、かなりの人がグノに入りました。グノの授業スタイルは本当に新鮮でした。学校でもグノの話題が自然に広がって、いつの間にかグノに通う人が増えたという感じです。

中村：私は結構グノを布教していました(笑)。最初に通った数学も良かったですし、高2から通い始めた英語も、帰国子女でも手応えがあったので、同じ帰国子女の人やそれ以外の友人にも、教材を見せながらかなり積極的に勧めていました。

グノーブルの英語

林：英文を語順のままに理解するやり方とか、音声教材の使い方、音読の仕方などは、グノ独自のものがあると思います。それまで英語をいちいち解説しながら読んでいたのが、自然に読めるようになったのがすごく良かったです。

特に英語の力を上げるための正しい音読のやり方を教えていた

いたのは大きかったです。それを始めたら成績がすぐに伸び始めました。

中村：他の塾では英語を受験科目として勉強すると思います。グノでは言語としての英語を学べたと思います。私は小学校5年生までアメリカにいたのでベーシックな英語については不自由しませんでした。その英語をさらに伸ばしたかったので、受験問題になっている英文ではなくて、楽しく読めたり、ためになる英文をたくさん提供してくれるグノの授業はとても良かったです。解説のときにも、英語圏の人の考え方や、文化的な背景、学問的な背景も話してもらえたので、楽しく授業が受けられました。

文法重視の授業だと、英文を読むときにも、古文の品詞分解みたいに文法的な解釈をしなければなりません。それが私はすごくやりにくかったんです。グノの場合は前から読んでそのまま意味をとっていくというネイティブと同じ感覚で学べたのですごく分かりやすかったです。

小立：前に通っていた塾は徹底して暗記重視でした。たとえば、「asには意味が7個あります」と先生が言って一通り黒板に書き、それを生徒はノートに写して覚えてくるというものでした。7通りの意味にどんな関連があるかも説明されません。

グノだと、成り立ちから教えてもらえて、そこから意味がどう広がっていったかを教えてもらえるので、説明を受けているときにも、興味を持てます。asだったら、「all so『全くその通り』」が短くなってasになったから、asの根幹の意味は『同じ』。そこから広がって…」と、先生が解説しながら、

いろんな例文を教えてください。こっちも「へー」と思えて、ちょっとしたドラマを見ているようで面白いんです。

前の塾では、文の解説も文法重視で、いちいち構文を解析して、最後に意識を先生が言っていくというスタイルでした。私たちは日本語を読む時に文を分解したりはしないので、英語圏の人たちはこんな読み方はしないだろうなとずっと疑問に思っていました。

グノでは前から読んでいくやり方を教えてもらえるので、意味も文章の流れに沿って自然に頭に入ってきて、内容を自分の中に吸収できる感覚が分かりました。

以前から英語は得意でしたが、それは試験の問題が解けるということでした。グノに入ってから、本当の意味での英語力が鍛えられるようになりました。

風晴：グノに入って最初の授業で扱った英文を、言われるままに1週間音読していたら、それだけで、英語を読む感覚が変わったと思えたので、これを続けていけばちゃんとした英語力がつくと思いが持



権藤 陽祐さん (文I・駒場東邦)

てました。

自分の場合、音読が基準になりました。他の科目に時間をとられたりして音読をサボっていると英語の感覚も鈍ります。成績にもそれが表れます。音読をしっかり習慣化すれば打開できます。

僕はずっと剣道をやっていますが、音読は素振りにすごく似ていると思っていました。基本の素振りを欠かすと勘が鈍ります。それと同じで、英語の場合も音読をサボると理解するスピードも落ちてきます。音読は毎日やるのが大切です。

権藤：単語帳を使わないのはグノ独特でした。単語帳を覚えて単語テストという指導を受けてきましたが、それで実際に英文を読めるようになったかというところでもありませんでした。グノの場合は語源の説明があって印象に残りやすいし、他の文脈で出てきたときも推測できる効果もありました。実際にグノのやり方で読解力が上がったので、単語帳を使わないことに不安はありませんでした。

草野：他の人の頭の中は覗けない

のではっきりとは分かりませんが、単語帳に頼った勉強をしていると、単語でつまづいた時、「あれ、単語帳のどこにあったっけ？」という思い出し方をすると、グノで音声教材を使って勉強していると、つまづいたときに、頭の中で音声が駆け巡ります。音声教材は授業で扱った英文そのものだから、英文の内容や、プリントにメモした書き込みなども頭に浮かんできます。グノの勉強方法は、いざという時に、思い出せる速さや情報量がまるで違うと思います。

大津：グノに入る前に、有名な単語帳のひとつは6周して、別のものを10周、さらに東大に特化したものも3周していました。とにかく、単語と熟語と文法を知識として徹底的に詰め込んでいました。学校の授業でも、分からないことに出会うことはまずなかったので、知識には自信を持ってグノに入りました。ところが、グノの授業を受けてみたら、時間内に英文を読み終わらない、要約でまとめたことは的外れ、自由英作文は書きよどむ、と、できないことづくめでした。僕が持っていた知識は生きたものではありませんでした。

「知識と技能は違う」と習ったことがあります。スポーツや楽器演奏みたいに、頭で意識しなくても巧みにできる状態になっているのを技能と言うらしくて、グノでは、まさに技能としての英語を鍛えていると思います。

英語の楽しさ

林：英文の背景知識として興味深い話をいろいろ聞けることが良かったです。先生はよく、「英文を読むためには土台になる教養が



林 亮太さん (文Ⅱ・筑波大附属駒場)

なくては読めない」と言って、僕たちにいろんな話をしてくれました。話の内容も面白かったし、次々と先生の中から話があふれ出てくる様子も楽しかったです。

中村：英文の解説のときにしてくださる先生の話の話を聞いていると、英文の内容が生き生きとしてきます。自分にはあまり関心はなかった英文でも、先生の話で興味の持てるものにガラッと変わることもよくありました。それが毎回楽しみでした。

権藤：最新のニュースもよく英文教材になっていたし、それを先生が解説してくれるので、授業がニュース解説の場にもなっていました。英語の授業ですから、たとえば、iPS細胞の名前の由来も英語でわかりますし、どうして最初のiだけ小文字なのかまでも教えてもらえました。

小立：私もグノの教材で扱う情報の新鮮さにはいつも驚いていました。STAP細胞がまだ脚光を浴びている最中に教材になっていたのも、情報の早さを物語っていたと思います。受験生活をしている

と新聞やニュースに触れる機会が減ってしまうので、グノの英文でリアルタイムに今の出来事に触れたのは助かりました。先生がその記事以外の話もたくさんしてくださいだったので興味が持てて、自分の視野が広がることにもなりました。

ニュースばかりではなく、本当に広範囲に渡る話題を英語で読めました。先生の解説付きなので、小論文や面接にも使える知識が随分増えました。

風晴：授業の仕組みが、僕たちが英語を楽しめるように工夫されていると思っていました。知的好奇心を満たしてくれる教材が用意される、ということもそのひとつですが、教材がその日に配られること自体、「今日は何が読めるんだろう」という期待感につながりました。

解説のときにも、先生はものすごいスピードで話しますが、こっちは一方的に聞いているのではなくて、いつ当てられるか分からないので頭が活性化されます。その心地良い緊張感というか、剣道の試合にもちょっと似ている油断できない感覚が僕は好きでした。

草野：どんなことでも懸命にできると楽しく感じられますが、グノ

の英語はそういう仕掛けもありました。たとえば、高3の学年になると、毎週、英文の要約をして、それを先生が添削してくださいませ。10点満点で点数もついてきます。合格ラインが8点で、私の場合、なかなかそこに届かないんです。授業最初の演習がそれなので、なんとか8点に届くようにと開始直後から頭が全開になりましたし、家でも音読を中心に復習に気合いが入っていました。

大津：8点は厳しかったですね。6、7点は取れてもなかなか8点には届かないという感じでした。学校の友だちが5人グノに通っていたので、そのメンバーで学校の黒板に表を作って、「今週はオレ6点、お前は7点。わぁ、負けたわ」みたいに楽しみながら切磋琢磨していました(笑)。

英語の伸びを感じた時期

林：中3冬で入ったのがEGGSという基礎から鍛え直すクラスでしたが、高1の一学期の間にa1*まで上がれました。高2の終わり頃にaに上がっていましたが、その後a1に落ちてしまい、そこから心を入れ替えてしっかり音読に取り組んだら再びaに上がれました。この頃には英語の力は安定したと思います。模試でも英語に関しては高得点が取れていたことで東大の試験本番も安心して臨めました。

権藤：入ってすぐに「伸びたかな」と思いましたが、安定したと確信できたのは高3に入ってからです。やはり音読の習慣が要因としては大きいと思います。

中村：英語は高2から通っていましたが、高3の要約でなかなか満



風晴 友吾さん (文I・駒場東邦)

足のいく点数がとれませんでした。返って来た添削に先生がいつもコメントをくださっていて、それを指針にして復習を頑張ったら、高3の夏前から8点の合格ラインに届くようになってきました。全体の構成が見えていないと、要約で高得点を取るの難しいですが、その頃から、視野を広く持てるようになったのだと思います。

小立：私は最初a1で入りましたが、次のクラス分けでa2に落ちて、復習に力をいれているうちに「最近力がついてきたね」とa2の先生におっしゃっていただき、その後aに上がることができました。

でも、本当に力がついたと感じたのは11月、12月くらいの直前期です。音読は地道に続けていましたが、「効果があるのだろうか」と不安に思った時期もありました。ところが直前期になって突然、英文をそのままとらえられるような感じになりました。要約の点数も上がりました。続けていけば、私のように最後の最後で大きく伸びることもあります。

風晴：僕の場合、高2の冬からとスタートも遅かったのですが、伸びは半端なく、入塾して数週間で、「キター！」という感じでした。



大津 毅朗さん (文Ⅱ・桐朋)

*この学年の英語は、高2途中までa(最上位)から、a1、a2、a3の設定。その後、a4、a5が追加設定されました。



中村 有里さん (文Ⅲ・雙葉)

英文がすらすら読めるようになりました。

草野：中2の冬にグノに入る前は、学校でも英語は上の方にいると思っていました。ところが、入塾テストを受けたら一番下のクラスでした。だからといってがむしゃらになったわけでもなく、グノの音声教材で耳を鍛えながら、授業の復習を欠かさずやってきたら英語はいつのまにか上のクラスで安定していました。

大津：さっきも話した通り、入塾までに自分でも英語は勉強していました。そのやり方が単語帳や参考書をガチガチにやるというスタイルだったので最初はグノのやり方に馴染めませんでした。

入塾当初はα2でしたが、次は上げられるだろうと思い、自分のやり方を貫いていましたが、テストを受けたらなんとα4まで落ちてしまったんです。そこでようやく、自分のやり方に問題があると気がつきました。音読やシャドーイングなど、音声教材を使った勉強を必死にやり始め、その結果、次のテストでα1に上げられました。もちろん模試の成績も大幅に上がりました。



草野 遥菜さん(文Ⅲ・女子学院)

グノーブルの数学・国語

林：数学は中3の三学期からです。数学も学校の授業をしっかり聞いていなかったのが、グノの授業で基礎から積み上げてもらいました。学年が上がってからは、参考書では学ぶことが出来ない定石を教えてもらえたことで成績も安定するようになりました。

国語は高1で古文、高3で東大国語を受けました。国語については、採点者がどんなところを見ているのかを教えてもらえて、苦手な現代文も安定して点数がとれるようになりました。そもそも文系の人たちは、現代文の感覚のようなものがあると思うのですが、僕の場合はそれすらなかったのが、時として全般的な外れなことを書いていました。そこが的外れではなく、しっかり点をつけてもらえるようなものを書けるようになりました。

中村：私は数学を中1からお世話になりました。数学の勉強＝解法を覚えるという塾もあるようですが、私はグノだったので、どんな問題が来ても対応できる力を鍛えていただけだと思います。いろいろな角度から見る眼が持てるような問題がセレクトされていたお陰だと思います。

国語については高2で古文を、高3で東大国語をとりました。古文は苦手な嫌いで、どうしてもありませんでしたが、たった1年で、英語みたいに前から読んで意味がどんどんとれていくレベルまでなれたので本当に感謝しています。

草野：私は高1で古文、高2の講習で小論文と現代文、高3で東大国語と小論文をとりました。グノの古文は1年学べば十分ということととって見たら、本当に1年で



小立 まゆ子さん(文Ⅲ・雙葉)

格段に力がつきました。

東大国語の先生は、勉強のことに限らず、そして授業中だけでなく授業が始まる前にも、いつも面白い話をしてくださって、毎週楽しんで勉強しているうちに実力がつきました。

風晴：数学を高3の春期講習から受講しました。それまでも勉強はしていたので、解法が決まっている典型的な問題ならしっかり点数がとれていました。でも、模試などで、見たこともない問題が出されると手も足も出なかったんです。応用問題の糸口とか方法論的なものを学びたくて、春期講習で数学の授業を受けました。その時、「あ、これだ」と直感的に思いました。

上位クラスの授業はすごくレベルが高いのですが、食らいついていきました。とにかくグノの授業を優先していたので、東大の過去問を解き始めたのも、センターが終わったからでした。ところが、過去問を解いてみたらめちゃくちゃ簡単だったんです。東大の本番でも数学で助けられたと思っています。

学校生活を犠牲にしない

草野：私は茶道部の部長をしていたのでどうしてもそちらを優先しなくてはならない日もあって、振り替えが利くのはとても助かりました。

風晴：体育祭でグノの日とかぶっている時も、日程をずらして通える仕組みが整っていたのは本当に良かったです。もし、そうでなかったら、学校の行事を理由にして勉強をサボってしまうことになっていたかもしれません。

権藤：僕は、体育祭のときに連続して休んでしまいました(笑)。でも、グノは欠席教材がネットでダウンロードできるから、翌週の宿題をするのに困りません。受付でもらうこともできます。しかも、休んだ日のプリントをやって持って行けば、担当の先生が添削して返してくれます。ここまで対応してくれる塾はまずないと思います。

小立：前の塾だと、振り替えは映像授業になってしまいました。振り替えても授業を受けられるのは大きなメリットだと思います。

中村：普段の授業もですが、講習のときにも結構柔軟に振り替えを受け付けてもらえました。たとえば、全部で4日間のうち2日だけ



権藤 陽祐さん(文I・駒場東邦)

違うタームに分けてとるとか。部活も塾も休みたくなかったのすごく助かりました。

林：高3の春まで陸上部のキャプテンをやっているのすごく忙しかったんです。さらにうちの学校は高3の11月に文化祭があるので高3といえども相当ハードです。グノは振り替えが利くので休むことなくどちらも両立できました。今考えても、振り替え制度がなければ学校と塾の両立は不可能だったと思います。

先生や職員について

大津：先生方は、生徒一人ひとりの名前も覚えてくれますし、僕たちを尊重してくれているのが分かるので質問しやすかったです。先生だけではなくて、受付の人も、警備員さんも、僕たちに丁寧に接してくれて嬉しかったです。

権藤：先生方はすごく熱心だし、先生たち自身が授業を楽しんでいて、きらきらした感じです。勉強でも何でも、熱意があつて楽しんでいる人から教わりたいし、グノに来ると教室に座るだけで、勉強するぞ、という気持ちになります。警備の人まで、大きな声で挨拶してくれて、気持ちよかったです。

草野：他の塾に通っていた人たちは、学校で塾の先生の話をするときにも、先生が面白い冗談を言っていたという程度の盛り上がりだったと思います。グノに通っていた人たちは、先生の人柄や、先生と話した内容とか、授業で扱った教材のことなど、もっと深いところまで入っていきました。

風晴：先生との距離が近いと感じられると、こちらから先生のために頑張らなきゃと思えます。先生が



中村 有里さん(文Ⅲ・雙葉)

僕たちのために一生懸命になってくれるのだから、結果を出さなきゃならないなど。部活の指導者でも同じですが、先生が一生懸命だと教わっている方も当たり前合いが入るものです。

受付の人たちも感じが良く、受付に寄ってから授業に行くと、必ず「行ってらっしゃい」と笑顔で言ってもらえます。やる気が出ましたし、明るい感じで良かったです(笑)。

小立：グノの先生は添削で、私たちの成長を常に見てくれていると思います。直前期の授業後に先生が「春ごろは不安点もあったけれど、最後は伸びてきましたね」と言ってくださいました。「ここでずっとやって来て良かったな」と改めて思いました。先生がしっかり見てくれていると感じられるのはとても嬉しいことですし、本当に励みになります。

中村：毎回、添削をしている間に、先生たちは生徒一人ひとりのできているところと弱点を把握しているのだと思います。それを先生が直接おっしゃることはありませんが、こちらから相談に行くときも的確にアドバイスがいただけました。「今日的答案では○○と書いていましたが、あそこは…」と、

東京大学

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



うえの やま なおゆき
上野山 直志 さん
(理I・開成)



きたみ しゅんや
北見 駿也 さん
(理II・筑波大附属駒場)



こんどう まさたか
近藤 雅貴 さん
(理I・開成)



じんぐう あら た
神宮 亜良太 さん
(理I・駒場東邦)



たかまつ そう
高松 創 さん
(理I・開成)



のだ さき こ
野田 早紀子 さん
(理I・東洋英和女学院)



ふかだ こう き
深田 航輝 さん
(理I・開成)

Part 2



おかもと ゆきひろ
岡本 幸大 さん
(理I・駒場東邦)



たちばら まなみ
立原 愛実 さん
(理II・女子学院)



なかにし りん たろう
中西 倫太郎 さん
(理II・本郷)



はせがわ り せ
長谷川 璃星 さん
(理II・立教女学院)



ふじおか りょうすけ
藤岡 良輔 さん
(理II・本郷)



みたむら かんじゅ
三田村 侃樹 さん
(理I・芝)



むらの しゅんや
村野 隼也 さん
(理I・本郷)

具体的な内容まで覚えていらっしやるんです。

林：数学の先生も本当に細かいところまで弱点を把握されていて、直前講習の時に質問したらとても丁寧にアドバイスをしてもらえて助かりました。

受付の方たちには僕もとても感謝しています。塾に早く着いた時など、さっと自習室を開放してくださる臨機応変さは、さっきの振り替えの話と同様、なかなか他塾ではないことだと思います。

後輩たちにアドバイス

大津：あまり模試の結果を気にしないで、間違えたところはきちんと直していくという地道なスタイルを貫いていくことが大事だと思います。

あとメンタル面で言えば、東大を目指すなら私立をあまり受け過ぎない方がいいと思います。問題の傾向も違うでしょうし、そこでしくじって落ち込むのでは本末転倒です。そういう考えもあって僕は東大前期にしか出願しませんでした。

草野：根拠がなくても最後まで自信を持ち続けることが大事だと思います。グノを信じてやっつけば確実に成績は伸びます。気がかりなことがあったら、すぐに先生に相談すれば、必ずどの先生も親身になって応えてくれます。自分で抱え込まないで自信を持って頑張りたいと思います。

風晴：高2の後半頃までは東大に届かないと思っていたとしても、グノの授業に集中して、しっかり復習をやっつけば東大のレベルまでは余裕で力を伸ばしていくことができると思うので、あきらめ

ずに頑張ってください。

小立：グノを信じて先生がおっしゃるやり方で勉強を続けていけば成績は上がると実感しています。伸び悩んでいる時は自分で試行錯誤というか、あがいたりするのはなく、先生に相談する方がいいと思います。

過去問を解き過ぎないことも大事です。過去問を解いて解説を読んでもあやふやなことが多々あるので、そんなことで時間を割くよりも、グノの先生もおっしゃっていたように、グノの教材を何度も繰り返すことが大事だと思います。

僕の場合だと部活とか文化祭で人より勉強時間がとれないことは分かっていたので、なるべく早めに勉強を始めました。どこから本気モードに入るかが大事なことです。長い目で見て受験勉強を開始するのは難しいと思いますが、その意識が後々大きくものを言うはずですよ。



林 亮太 さん (文II・筑波大附属駒場)

権藤：英語に関しては、グノの復習をきちんとやれば大丈夫です。ただ大事なのは総合で合格点を越えることなので、得意科目と不得意科目の勉強の比重を考えて、トータルで合格点を越えるよう努力することが大事だと思います。

中村：私も勉強の計画性が大事だと思います。英語ならグノに任せていいと思いますが、全部の教科の底上げをするのは人それぞれにやり方があってと思うので、自分にあった勉強のスタイルを早くから見つけることが大事だと思います。

林：先生方のアドバイスに従うこと、これは絶対に重要だと思います。

9期生 合格者インタビュー

東京大学 理系

Part 1

うえの やま なおゆき
上野山 直志 さん (理I・開成)

きたみ しゆんや
北見 駿也 さん (理II・筑波大附属駒場)

こんどう まさたか
近藤 雅貴 さん (理I・開成)

じんぐう あらた
神宮 亜良太 さん (理I・駒場東邦)

たかまつ そう
高松 創 さん (理I・開成)

のだ さきこ
野田 早紀子 さん (理I・東洋英和女学院)

ふかだ こうき
深田 航輝 さん (理I・開成)

「グノらしさ」ということで言うなら、演習をして、
答えは即添削してもらえるとという相互性じゃ
ないかと思います。

深田 航輝さん (理I・開成)

入塾のきっかけ

高松：開成に入ってしばらくは学校以外の時間は自分で使いたいと思っていて塾には通っていませんでしたが、中2の中頃から英語力不足を感じるようになっていました。途中から入っても遅れを取り戻せそうなグノを選んで中2の冬期講習を受けてみたら、塾の雰囲気がとても良くて気に入りました。

近藤：僕も中学時代は英語に真面目に取り組んでいなかったのですが、高校になって成績が下がり始め、「塾に行かないとマズイ」と思っていました。「グノーブルの英語はいいらしい」と母親が学校のネットワークでグノーブルの評判を聞いてきて、高1の夏期講習を受けてみてすぐに気に入りました。こちらが先生の名前を覚えるより先に、先生の方が僕の名前を覚えてくれていたんです。英語も数学もグノにしました。

神宮：僕も同じような感じで、高1までは部活に出るか友人と遊ぶか、全く勉強をしていなかったのですが成績はあまり良くなく、このまま高2を迎えてしまうとマズイだろうと親に言われ、自分でもそ

う考えたので、高1の冬に入りました。グノを選んだのは学校の友人3人ぐらいに勧められたからです。実際に講習を受けてみたら授業が良くて他と比べることもありませんでした。

北見：僕がグノを選んだのは、英語の評判を先輩から聞いていたこ



上野山 直志 さん (理I・開成)

ともありますが、学校の行事などがある場合、振り替えができるのも魅力的だったからです。中2から英語、中3からは数学にも通い始めました。

野田：小6の終わりにスタートダ

ッシュ講座を受けて、中学3年間数学でお世話になっていました。英語は高1の冬からです。もともとグノには姉が英語で通っていて、最初は下の方のクラスにいたのにどんどん成績を伸ばしていたので、「きっと何か秘密があるんだろう」と思っていました。英語は得意だったのに入塾テストを受けたら上のクラスに入れなくて、それがすごく悔しかったのですが、授業に出てみてグノのレベルの高さを感じました。

深田：僕は高校入試で開成に入ったので英語にはある程度自信を持っていました。その力をより上げたいと思い、高1になる前のフレッシュ講座から入りました。大数や高数の広告*を見てグノの英語の指導は面白そうだと興味を持っていました。

上野山：僕も開成には高校受験で入りました。グノの英語に入ったのは高1の9月からです。最初の授業から先生が名前を呼んでくれたし、楽しく勉強できそうな雰囲気がまず気に入りました。英語は一番の得意科目だったので、さらに力を伸ばして得点源にしたいという思いがありました。グノを選んだのは雰囲気だけじゃなくて、

授業を受けてみて大丈夫だと確信が持てたからです。

学校での評判

上野山：「グノ生は英語マジ強い」と崇められていました(笑)。僕もグノ生の名に恥じぬよう頑張っていました(笑)。

近藤：崇められていたかどうかは分かりませんが(笑)、グノでは上位のクラスじゃない人でも、学校のテストではいい成績の人が何人もいたということはありませんでした。
高松：英語というと、単語帳を覚えて文法の問題集ひたすら解いてという詰め込み形式の塾が一般的だと思います。そういう塾に通っている人たちからは、グノはどんな授業をしているのか分からないけど、「あいつら力が上がってる」と思われていたと思います。

深田：高校受験組の中ではグノはあまり知られていなかったかもしれませんが、部活の先輩からどこの塾に通っているかを聞かれて「グノ」と答えると、「グノっ

て英語がいいらしいよね」と言われました。

近藤：数学も通っていた僕から言っておきたいのは、グノというと多くの人が英語というイメージに直結すると思いますが、グノで数学も通っている人の中では「数学もいい」と言い合っていました。

野田：私の学校でも英語ができる人にはグノ生が多かったので、「グノに通えば英語ができるようになる」と思われていたかもしれませんが、それより、グノに通っている人たち同士で授業のことや先生のことをよく話題にして盛り上がっていたので、「塾に通うのが楽しそうで羨ましい」とよく言われました。

北見：僕の周りではあまり塾の話題にはならなかったのですが、そんなに勉強しなかった僕でも英語だけは良かったし、数学も周りからは良いと言われることもあったのはグノのお陰です。

神宮：駒東はグノに通う人が本当に多くて、皆グノに親しんでいますよね。僕らの代はもちろんですが先輩たちも先生の個性やクセまで細かく知っていますし、先生のモノマネも結構流行っていて、「グノ勢*」の歴史は引き継がれています(笑)。

グノーブルの英語

神宮：グノに来る前、僕はリスニングが全然できなかったし、どう鍛えればいいのか分からなくて困っていました。グノに来ていなかったら今でもどうしようもなかったと思います。

決め手は音読だったのですが、音読は、ただ声に出して読むことではなくて、授業の解説でしか



近藤 雅貴 さん (理I・開成)

り理解できている英文を、誰かに英語のまま伝えるつもりになって読んでいくことなんです。正しいやり方を先生に教えてもらって、それを信じてやっているうちに、スラスラ読めるようになりました。その上、いつの間にか聞き取る力もついていました。

野田：以前は英文を読むとき、頭の中でいちいち日本語に訳して理解するというやり方をしていたので、文章を読むのに時間がかかっていました。グノで音読に取り組むようになって3か月くらい経った頃、英語を英語のまま理解できるようになりました。そこからは読むスピード、理解するスピードが格段に上がりました。

高3になった頃は、要約で思わしくない点をとるとめっちゃ悲しくて、一週間ずっと心が傷ついていました(笑)。でも逆にそれがモチベーションになって、「次やってみよう」と、さらに音読に拍車がかかっていました。音読は気軽に出来るので電車の中でもマスクをしてできます(笑)。母に前に座ってもらって話しかけるようにやってみることもあります。



北見 駿也 さん (理II・筑波大附属駒場)

高松：訳しながら意味をとっていきのが一般的な中で、グノのように英語のままその語順で解釈できるよう具体的手法を示してくれるところは他にはないと思います。高1の終わり頃にそれができるようになって、理解スピードが格段に上がりました。

僕の場合、継続的に音読するというより、「ちょっと読めなくなってきたかな」という時に一気に



神宮 亜良太さん(理I・駒場東邦)

やっていました。経験としてやれば必ず効果が出ることは分かっていたので、「音読は頼もしい!」と思っていました。

いろんなジャンルの英文を用意してもらえて、背景までしっかり解説してくれるところもグノならではの。どんな問題にぶつかってもグノで培った背景的な知識が何らかの形で役立つようになりました。

北見：僕は授業には集中して取り組んでいましたが、多分、それ以外にはあまり熱心ではなかったと思います。逆に言うと、それでも力を伸ばすことができたのは授業

の仕組みが良かったからだと思います。授業内では、演習をして、すぐに解説してもらえます。英語に触れる量も豊富だったし、1回の授業でこれだけ学ぶことができるのはちょっと他では考えられないと思います。それを中2から経験していたので、英語の軸はしっかり備えられたということかもしれません。

深田：「グノらしさ」ということで言うなら、演習をして、答えは即添削してもらえるとこの相互性じゃないかと思っています。毎回、演習には真剣に取り組んでいましたし、添削を見れば、自分の課題が一目瞭然だし、解説からも受験テクニック的なことじゃなくて、文章の論理展開を理解する本質に関わることが把握できて、そういう授業が大好きでした。

読解と英作は授業としては別に行われていましたが、実は連動していると思っていました。英文を前から読んでそのまま理解できるようになると、英作文にも良い効果があったからです。特別に英作文の勉強をしたというわけではありませんが、前から読んで意味をそのまま頭にインプットできるようになると、アウトプットする時も手が止まることもなく楽に書けるようになりました。英作も読解と同じで演習したものをすぐに添削してもらえたので、自分の課題がその場ですぐに反省できました。

近藤：添削は大きいです。これほど頻繁に、しかもその場で添削という仕組みが確立されているのはグノだけじゃないでしょうか。特に、英作文のようなアウトプットは、やればやるだけ効果が上がりますし、それを添削していただくことでどんどん成長できます。高3になりたての頃は文法ミスばかり

りしていましたが、回を重ねるごとに徐々に減って行って、Goodとか、Very Goodとか書いていただけるとモチベーションがすごく上がりました(笑)。

中学の頃から学校で英語の授業を真面目に受けていなかった僕にとっては、グノで教わったことが英語のすべてですが、ここまで来られたのは、信頼できる先生の存在を常に身近に感じられたからという点も大きいと思います。

上野山：他の塾に通っている学校の友人がいっぱい宿題を抱えて、面倒くさいと言いつつ作業のようにやっている姿をみて、グノと全然違うなと思っていました。グノで楽しく勉強できるのはちょっと幸せだと思っていました。

英語の楽しさ

上野山：グノの英語は本当に楽しかったです。今日はグノの日だと考えるだけで嬉しくなりました。僕たちだけじゃなくて、先生も楽しんで授業をやっていたのは間違いないです(笑)。先生が解説し



高松 創さん(理I・開成)



野田 早紀子さん(理I・東洋英和女学院)

ている姿を見ながら、「今日も輝いているなあ」と思っていました。

野田：先生がいつもキラキラした目で授業をしてくださるから、私たちもフレッシュな気持ちで授業に臨めました。そういう塾の雰囲気グノの特長だと思います。

北見：グノの英語の授業は、楽しくて夢中になっているうちに力がつく独特な時間でした。高3になると他科目の受験勉強で、結構きつい経験もします。でも、1週間に1回、グノの英語で濃密な授業を受けると、演習量も多いし授業も長いにも関わらず、それが自分にとっては安らぎにもなっていました。

神宮：グノの授業はやりがいがあるんです。最初は演習で始まりませんが、その場で添削を受けられるので、先生からいい評価をもらいたいという気持ちもあって頑張ろうと思えます。演習が終わると、新鮮なうちに解説してもらえるので解説にも集中できます。単なる解説講義だと、授業にこんなに夢中になるのは難しいと思います。

深田：グノの英語は受験勉強の枠

を突き抜けています。つい最近あった事柄でもすぐに教材になっていたの、授業中に世界で起こっていることを知ることでよくありました。英語でいろんな情報を読めることが自信にもなって、興味も湧いて、英字新聞やネットで英語の情報をあさるようにもなりました。

高松：英文の内容は本当に多彩でした。日常生活を送る上での知恵もあれば、科学系の文章もあつたりして読んでいて全く飽きないし、「今週はどんな文章が読めるかな」といつも楽しみでした。

野田：私たちの興味を引きそうな英文を先生が用意してくださったので、ためになるものが多かったんです。普通の受験問題より量が多くて読み応えがあるものでも、気がついたら一生懸命読んでいるんです。

近藤：題材がタイムリーだったということでは、家族や友人とニュースの話をしているときにも、「グノの教材で読んだことがある」と、話題に乗れることもよくありました。内容が多彩で興味深いってことで言うと、グノの教材は知的好奇心をくすぐる内容のものばかりだったので、僕の中で英語に向き合う姿勢が変わりました。翻訳記事に頼らず、海外のサイトに直接アクセスして情報収集するのも普通のことになりました。

あと、グノの場合は最初に分厚いテキストを渡されて、「今日はここからここまで」という授業ではありません。授業のたびに新しい教材が配られるので新鮮です。僕はそれをずっとファイリングしていましたが、最後にはすごい量になって、それを見て「ああ、オレも結構頑張ったな」という気持ちになって自信にもなりました。

こんなに大量の英文を、結構深いところまで理解して、しかも繰り返し読んできた高校生なんてグノにしかないと思います。

英語の伸びを感じた時期

上野山：やっぱり伸びを実感しやすいのは、英文を前から読んで意味をそのままとれる感覚がつかめるときだと思います。それが「スラスラ読める」という感覚だと思います。学校のテストで周りの人が時間が足りないと言っていたときでも、僕は内心、そんなことはなかった、と思っていました。

近藤：最大の伸びを感じたのは、高3の初めにあったクラス分けテストの時です。その前に高2の1月にクラスが落ちてしまったので、運動会のシーズンが始まってもいたんですけど、その時期はかなり頑張りました。4月のテストではa4*からaまで上げられました。

ただ、aに上がったことで気が緩んでしまったことと、5月に運動会が重なったこともあって、自分でもaの力を維持できていない



深田 航輝さん(理I・開成)

*受験学年の英語は、a(最上位)から、a1、a2、a3、a4、a5の設定でした。



上野山 直志 さん (理I・開成)

か語彙力がついていることを実感していました。

高3になって他の科目に追われて、授業以外で英語に割く時間が減っても、グノの教材を音読し直していると短期間で復活してくるぐらいに土台は仕上がっていました。本番前に予備校のプレテストを受けてもかなりいい成績がとれていて、あらためてグノ効果を実感しました。

北見：うちの学校は高2まではかなり特殊で、先生たちの興味の高くままの授業が展開されています。ところが高3になると途端に受験を意識した特別考査が行われるよ

なぜか解けるようになっていたんです。

僕がやっていたことは本当に授業の復習だけです。授業で習ったことをノートにまとめて身につけるといふ地道な作業を続け、あとは英文の音読です。「このやり方でいいのかな？」と不安に思ったこともあります。ただ、結果的には直前になって努力が実を結んでいました。グノは1回でやる量も多いけれど、質も高いので、学べることが豊富です。それを自分のものにしていくことが実力を上げる一番の秘訣だと思います。

グノーブルの数学・物理

近藤：僕はグノで数学をすごく伸ばせました。特に高3からの伸びが著しかったように思います。高2までも学校の模試で順位は悪くはありませんでしたが、それまでは闇雲に問題を解いて何とか点数をキープするという感じでした。高3になって、グノのIAIBの授業で、戦略的な視点を教わって問題の見方が変わりました。俯瞰的に全体が見えるようになって、どんな道具をどう使えば良いかの方針が明確に立てられるようになりました。クラスの人数が英語以上



北見 駿也 さん (理II・筑波大附属駒場)

うになります。それが年4回あって無茶苦茶難しいんです。その英語で、意外と周りが苦戦している中、僕は余裕で取り組めていたので、「やっぱりグノはすごいな」と思っていました。

神宮：伸びていたんだと僕が感じたのは直前期です。グノの先生から、「英語の過去問はセンターが終わってから数年分やればいからグノの復習を優先」と言われていたのに、以前、東大の過去問をやって歯が立たず挫折、という経験をしていました。ところがセンターが終わってから解いてみたら、



近藤 雅貴 さん (理I・開成)

に少なくても、質問に行けばたっぷり時間をかけて対応をしてくださったことも大きかったと思います。**北見：**中3から数学にも通いましたが、最初に入った理由は当時の先生の、金八先生みたいなビジュアルに魅かれてです(笑)。というのはちょっと冗談ですが、学校の先輩からも言われていた通り、この先生は面倒見の良い先生で、そんな先生と触れ合ううちにここで頑張ろうという気持ちになりました。

高校になってからの先生もフレンドリーに接してくださったし、常に数学の楽しさが味わえる問題を用意して導いてもらえました。お陰様で数Ⅲに関しては得意な分野にできました。とても感謝しています。

物理の先生も一人ひとりをよく見てくださいました。高3の秋に文化祭でもものすごく忙しくて授業に行けなくなってしまったときにも、大丈夫と言ってもらえたので、安心して文化祭にのめり込めました。

グノの物理は授業の進め方が独特です。毎回配られるテキストには年表が書いてあるんです。物理の歴史に沿って展開していく授業だからです。物理は、前の時代に科学者が考えた事柄を、次の科学



神宮 亜良太 さん (理I・駒場東邦)

者がさらに進めることで現代につながってきています。それをたどっていくのは、第一にとっても理解しやすいし、ときには物理学を先に進めた科学者の人間性まで感じられました。自分の中にしっかり物理が体系化されました。

先生や職員の方々について

上野山：名前を覚えてもらえることがすごく嬉しかったです。名前でも呼んでもらえると、自分も参加して一体となって授業を作っているという感じが生まれます。グノではどの先生も全員、最初の授業から名前を覚えてくれます。

深田：名前を覚えてもらえるのは単純に嬉しいです。自分の存在を認識してもらっていると演習にも気合いが入ります。どこで当てられても大丈夫なように、先生が聞きそうなことを先回りして考えておくのは当たり前でした。

近藤：英語のクラスでは学年が上がると次第に人数が多くなってききましたが、それでも先生は全員の名前を覚えていらっしゃるし、添削もしっかりやってくくださるし、質問にも笑顔で答えてくださいました。こんなに面倒見がよくて居心地のいい塾は他にはないと思います。先生たちが僕たち一人ひとりのことを見てくださっているのが感じられるので、僕たちも期待に応えてがんばろうと思えるし、グノの授業にはそういう一体感があります。

僕は英語の場合、基礎クラスから1番上までコンプリートしましたが、上のクラス、下のクラスに関係なく、それから英語と数学に関係なく、どの先生も熱心です。こちらもおもわず真剣になれる雰囲気



高松 創 さん (理I・開成)

気が教室にあります。

野田：先日の合格報告会の時に、中1の時に教わって、それ以来お会いしていなかった先生から「野田さんだね！」と声をかけていただきました。すごく感動しました。

こちらも主体的に授業を受けなくなるのは、先生を尊敬できるからだと思います。深い教養をお持ちなので解説は興味深いし、それに加えてギャグセンスの高い先生もいて、眠いと思ったこともなければ延長が辛いと感じたことも一度もありませんでした。

高松：グノの先生は、専門的なところまで本当によく勉強されているなというも驚いていました。教材に書かれていること以上の解説がいつも聞けたし、先生の話の聞いていると教材がより深く理解できました。

北見：グノの先生は親しみやすく、分からないところがあっても質問がしやすかったし、質問の延長線上で勉強以外の話題で盛り上がることもできました。グノの先生たちは鎧を着ていないというか、「先生だから君たちとは違う」みたいにはしてなくて、僕はそういうところは大切だと思っていました。

9期生 合格者インタビュー
東京大学 理系

おかもと ゆきひろ
岡本 幸大さん (理I・駒場東邦)
たちばら まなみ
立原 愛実さん (理II・女子学院)
なかにし りんたろう
中西 倫太郎さん (理II・本郷)
はせがわ りせ
長谷川 璃星さん (理II・立教女学院)
ふじおか りょうすけ
藤岡 良輔さん (理II・本郷)
みたむら かんじゆ
三田村 侃樹さん (理I・芝)
むらの しゅんや
村野 隼也さん (理I・本郷)

神宮：いつも笑顔絶やさない先生とか、ユーモアのセンスが抜群の先生とか、常に元気に走り回っている印象の先生とか、そういう先生たちを見ていると、受験生ってどうしてもピリピリすることがありますけど、気持ちが和むし、元気が出ます。

高松：受付の人も、いつでも温かく迎えてくれてすごく感じが良かったです。

近藤：警備の人も感じ良く挨拶してくれました(笑)。

北見：うちの学校の後輩に言うなら、文化祭をしっかりとやって欲しいです。それも大事な高校生活なので。その代わり夏はしっかりと勉強した方がいいと思います。

深田：うちの学校なら、やっぱり運動会はしっかりとやりましょう(笑)。結局、真剣にやり切った方が、勉強にも真剣に打ち込めると思います。運動会後でもグノを信じてしっかりとやれば十分間に合うと思います。

野田：英語に関してはグノにお任せでいいと思います。あと、学校では友だちとワイワイやって、家ではしっかりと勉強するといったメリハリをつけて勉強するべきだと思います。

高松：いい意味で楽観的になることが大事です。模試の結果は悪いこともあると思います。そこで落ち込んで勉強が手につかないのが一番良くないことなので、終わったことにくよくよせず、目の前の勉強に取り組むべきだと思います。

近藤：グノの先生は人間的にも素晴らしい方たちですし、大学受験の豊富な経験を持たれています。先生のおっしゃったことを信じてやれば合格するだけの実力はつきます。心配になったら、先生に相談して自分の思っていることを単刀直入に話して解決していくことです。

あと、どの科目もグノはプリントが多いので整理を上手くやりましょう。

それから、受験直前期は学校にも行かなくなって人との交流がなくなるとは思いますが、その時に電話でもいいし、人と話すことが大事だと思います。

上野山：受験生だからといって勉強ばかりというのではなく、息抜



深田 航輝さん (理I・開成)

きの時間を確保してメリハリをつけるべきです。それから、たとえ追い込まれても、受験勉強を楽しむように気持ちを持っていくのがいいと思います。

後輩たちにアドバイス

神宮：受験を通して思ったことは地道な努力がモノを言うということです。思うように成績が上がらないときも、自分がやっていることを信じて頑張りたいと思います。

本当に辛くなったら東大のキャンパスに行くのもお勧めです。僕は駒東だったので近くの駒場キャンパスに入ってご飯を食べたり、本を買ったりしていました。キャンパスを歩くだけで「やっぱりここに入りたいな」と感じられて、自分の気持ちを引き締め直すきっかけになりました。



野田 早紀子さん (理I・東洋英和女学院)

6年間グノで数学を学んできて、
英語に負けなくらい良かったと思っています。
受験でも大きな得点源になりました。

三田村 侃樹さん (理I・芝)

入塾のきっかけ

村野：中3の頃は英語の長文を読むのが遅くて、「どうかしなくちゃ」と思っていました。母からは東大専門塾かグノのどちらかで英語をとるように勧められました。当時はまだ勉強に専念するつもりもなく、宿題が多すぎて学校生活や遊び時間に影響が出るのは論外でした。グノの冬期講習に参加してみたら、授業スタイルがとても気に入って入塾を決めました。

藤岡：僕は村野くんからグノのこ

とを聞きました。最初は大手予備校を考えていましたが、村野くんがグノの冬期講習に行くというので一緒に来てみて気に入りました。
中西：僕は高1春です。二人から、「グノの英語はお勧め」と聞いて入りました。英語は苦手だったので一番下のクラスからでしたが、「なんとか上のクラスに入ってやろう」という意気込みで頑張っていました。

数学については大手予備校の体験授業も受けてみましたが、グノの夏期講習を受けてみたら先生との距離が近いし、一つひとつ解いたのをちゃんと見てもらえたので、数学もグノに決めました。

三田村：中1になる前のスタートダッシュ講座から入りました。学校の友人に誘われたのがきっかけです。

岡本：中1の夏期講習からです。きっかけは母が受験情報誌でグノを見つけて勧めてくれたことです。早いうちから英語は得意にしておいた方がいいという母の思いがあってグノを勧めてくれたんだと思います。

立原：女子学院は数学の進み具合が遅い気がして不安だったので、中1から季節講習の数学だけ受け



立原 愛実さん (理II・女子学院)

ていました。授業がとても楽しくて、「ここなら続けられる」と思い、中2の夏頃に数学と英語の両方で入塾しようと思ってテストを受けました。ところが英語が落ちてしまい、冬にリベンジしたので、入塾したのは中2の冬です。

長谷川：私は高1の夏です。それまでは大手の予備校で講習をとっていましたが、大人数で先生が一方的に話している授業で、成績を伸ばせる感じがしませんでした。結構真剣に塾探しをしていたら、ネットの情報で「英語のすごい



岡本 幸大さん (理I・駒場東邦)

塾」とグノのことが書かれているのを見つけ、それで講習を受けてみました。教材も解説も良さが際立っていて、グノに決めました。

学校での評判

村野：本郷では、「英語が出来る人たちはグノ生が多い」と評判でした。

藤岡：確かに英語に関する評判はすごく良かったです。英語ができる人がグノを選んでいたので、グノに入ったから英語ができるようになったのか、多分どちらもあったと思います。

中西：僕は英語がもともと苦手で



長谷川 瑠星さん (理Ⅱ・立教女学院)

るJG生は少なかったし、知っている人も少なかったと思います。でも講習に来る人が増え始め、その人たちがグノに定着して、さらにその口コミでグノの名前が広まって、どんどんJG生が増えました。

女子学院では、英語のクラスは成績別になっていて、上のクラスにいる人たちはグノ生が多く、「グノの英語はレベルが高いね」という話はよく出ました。あと、帰国子女で英語ができる人たちがグノを選ぶケースも多くてグノの英語は注目されていました。

長谷川：私の学校は付属校なので、そもそも大学受験をする人の数が少ないんです。ただ、国立を目指している人はグノに通っている人が多かったと思います。

岡本：駒東は、先輩たちの代からグノに通う人は多かったようですが、僕の代では高校になってから爆発的にグノに通う人が増えたように思います。

グノーブルの英語

藤岡：予習なしで教室に行き、そこで演習をするというのは他の塾

にはないスタイルで好きでした。また演習量も多くて充実していました。

授業は延長することが当たり前になっていましたが、密度の濃い延長だったので授業が終わると充実感が得られました。延長が嫌だったことは一度もないです。

基本的に僕は、学ぶ量は実力に比例すると思っていますが、興味を惹かない課題をいくら長い時間学んでも力は伸びないと思います。グノは、質、量とも実力をつけるのにふさわしいものでした。

中西：高1、高2あたりは学校の授業だと1回の授業で1、2ページほどしか進みませんが、グノは英文を読む量が多いので長文に慣れるという意味ではすごく効果がありました。

さっきも言った通り、僕は英語が苦手嫌いだったので、最初にグノに来て、その日の演習プリントをもらった時は、「こんなにやるのか！」と憂鬱になりました(笑)。ところが、教材が面白かったし、緊張の途切れない授業の仕組みだったので、あっという間に授業が終わっていました。初回



藤岡 良輔さん (理Ⅱ・本郷)

の授業で抵抗感は消えて、すぐにそれだけの量が当たり前になりました。

三田村：英文を前から読むことが当たり前になれたのは良かったと思っています。学校でも、返り読みして和訳する指導を受けていたから、グノに通っていなければ英語を普通に読めるようにはなれなかったと思います。

村野：グノの方式で英文と向き合えるようになるとスピードも読解力も格段に上がります。

岡本：つまり、構文の解説に重きを置くのではなく、英語を英語のまま読むという学び方なので短い時間で多くの量が読めます。その上、グノは一回の授業設定がもともと2時間と長し、延長も普通なので、かなりの量を読むことになります。次の授業までにその英文を何度も音読したり黙読していましたが、毎週これを持っていたので英語力が相当ついたということだと思います。

長谷川：私も、まるでネイティブの人のように前から読むやり方を教えていただけだったので、大きな財産をいただいたように感謝してい



三田村 侃樹さん (理Ⅰ・芝)

ます。楽しい英文をこんなに紹介していただけたのも良かったと思っています。

立原：単語帳を使わないのもグノの英語の大きな特徴です。学校でグノ以外の塾に通っている人は単語帳を使っていたから、そんな人たちを見て、心の中で優越感のようなものを感じていました(笑)。

語源までさかのぼって単語の意味と背景を知れば、日本語との対応の固定的な意味に縛られることもなくなるし、知らない単語に出会っても単語の成り立ちから推測できます。

グノの場合、単語を文脈の中で身につけているので、イメージとしても残りやすいですし、作文のときにも使いやすくなります。

長谷川：英単語を、パーツに分けて語源から教えてくださると興味が持てます。同じ語根を持っている単語を、先生がどんどん黒板に書いて説明していくのは魔法を見ているみたいな楽しさがありました。つながっているものは記憶に残りやすいし、語源を知っていれば忘れかけたときにもイメージで思い出せるようになります。日本語を読んでいて知らない言葉が出てきても漢字のへんやつくりを見ればだいたいの意味が推測できるように、英単語も推測できるようになったのは大きな効果でした。それまでは英単語は暗記以外にないと思っていましたが、「こんな覚え方があるんだ！」と本当に驚きました。

英語の楽しさ

村野：授業で扱う英文の内容が面白くて興味が尽きませんでした。理系から文系までいろんな分野の



村野 隼也さん (理Ⅰ・本郷)

文章が網羅されていて、いつもワクワクしながら取り組みましたし、教材から英語以外の多くの知識も得ることができました。

内容が面白いと復習をすることが苦になりません。逆に、読んでいてつまらなければ復習をしようという気持ちにもなりません。グノの英語は本当に楽しいので、勉強が止まらなくなってしまうという感じでした。

立原：いろんな内容の英文を用意してくださるので、新しい知識を得られるという意味で興味が持てましたし、自分でもある程度知識を持っている音楽や化学や生物についても、さらに知識が深まりました。しかも、こういうことを英語で学べるので、グノはグローバル化の最前線だと思っていました(笑)。

英訳も楽しかったです。毎週たくさん書いているうちに英語で表現できる幅が広がりました。徐々に日本語の視点と英語の視点の違いも分かってきて、視点を転換させて英語で表現していく過程が楽しくなりました。

岡本：僕もグノで出会える英文が

毎週楽しみでした。自然科学系でも社会科学系でも結構楽しめましたが、ときに自分の興味のある内容だと嬉しかったですね。それ以上深いところを知るために自分でもネットで別の英文を探したりもしました。

藤岡：先生のキャラクターがそれぞれ面白いのも特長だったと思います。グノの英語は、授業の基本スタイルや教え方は同じです。でも、先生が熱いというか、本当に一生懸命に授業をやってくれるせいだと思いますが、授業は個性的で楽しめました。

長谷川：先生は2時間ぐらい解説を続けていらっしゃるんですが、授業を受けているときにはずっと短く感じられます。退屈もしませんし、気が散ることもありません。グノの授業を受けたことがない人にはちょっと信じられないと思います。

先生の教養も話し方も素晴らしいですし、ときにはジェスチャーを交えたり、私たちが巻き込んだりして解説をしてくださいました。あとで振り返ると、授業の様子が浮かんで先生の声も聞こえてくるので復習もしやすかったです。

三田村：先生が本当に熱心でした。英文教材が面白いから集中できる



岡本 幸大さん (理I・駒場東邦)

ということもありますが、解説のときに先生が英文の背景にまで渡って、僕たちに分かりやすく話をしてくれます。話をする先生の様子が楽しそうなのでこちらも思わず引き込まれてしまいます。

中西：もともと英語嫌いだった僕でも休まず通えた理由の一つは先生の熱意です。一生懸命指導してもらえるので、こちらも応えたいという気持ちが湧きました。それから、最初は半信半疑で始めたことでも、ことごとく結果を伴ったということがあります。「音読中心でいいのかな」とか「単語帳を使わないのは怖い」という気持ちもありましたが、高1の一年間、信じて続けてみたら、実際に成績が伸びましたし、グノのクラスも最上位まで上がりました。

藤岡：成績が上がっていけばどんどん英語が好きになるし勉強するのが楽しくなります。模試で結果が出ればモチベーションは上がるし、それをどんどん繰り返していくといういいサイクルがグノにはありました。

英語の伸びを感じた時期

村野：最初に伸びを感じたのは3か月ぐらい経った頃です。テストの点に表れたというより、英文を読むことが楽しくなって、「英語に馴染めてきた」と実感しました。それから何度も伸びを感じました。たとえば、模試を受けても時間に追われることがなくなり、成績がどんどん上がり、自信も持てるようになりました。

グノのやり方で音読を続けていたことが良かったと思います。学校でも音読は推奨されていましたが、僕自身はやり方が分かっていなくて、目に入ってきた英単語を



立原 愛実さん (理II・女子学院)

ただ口に出しているというものでした。グノで、ネイティブの感覚をどう意識すればよいかを教してもらって、初めて音読の効果のすごさが分かりました。

中西：高1の終り頃に α (最上位レベル) に上がって、模試の成績も、数学や国語と比べて悪かった英語が一番良くなりました。その頃には英文を読むことが苦ではなくなっていました。結果が出ると復習に向かう気持ちも大きく変わりました。

復習の中心は音読です。「ちゃんと意味を理解しながら読む、自分の目の前にいる人に伝わるように話す」という先生の教えをしっかり守っていました。

立原：私もグノのクラスが上がったのが基準になりました。中2の冬に入ったときは一番基礎クラスでしたが、1年くらいで α に上がった時に力がついたと思いました。あと、高2の秋に予備校の模試を受けてみて、思ったよりもいい点数がとれて入試で十分通用する力がついていることを実感しました。

私も復習は音読中心でした。目の前に人がいるような気持ちで音読をするのは、自分が意味を理解して、自分に説明するのと同じことだと思います。英文を読みなが

ら内容を頭の中で再現できるようになりました。

岡本：僕の場合は中1から通っていたので、いつ伸びたという明確なときはよく分かりません。高3の夏前に、他教科に時間を割きすぎて英語の成績が下がったこともありましたが、あらためて復習に力を入れたら、次の模試で満足いく点数として表れました。

僕も自分に説明するように音読をするよう心掛けていました。ただ、音読はあくまで授業の復習という位置づけなので、いい加減に授業を受けている大きな効果は期待できません。やはり授業をしっかり聞いて理解することが大事だと思います。

三田村：僕も中1からですが、高3の秋に実感として英語がちゃんと読めるといったことがあります。その頃の授業でよく扱っていたパラグラフ整序問題が急にできるようになりました。英文全体がつかめるようになったと思えて自信になりました。それまでは、長い英文になると途中で最初の方に書いてあったことを忘れてしまっていたのですが、読解力が一段階上がった感じでした。まさに続けていた音読の成果だと思います。

長谷川：私の場合、クラス分けテ



中西 倫太郎さん (理II・本郷)

ストで時間内に終わって少し余裕があった時に、「力がついている！」と思いました。グノのテストは、時間との戦いという意味では多分どの入試問題よりも厳しいので、結構自信になりました。その時のテストで、クラスも α に上がりました。

高3になると模試がたくさんありますが、周りの人が「時間が足りない」と言っている回でも、私は見直しができる時間も十分に余ってましたし、英語が一番の得意科目になりました。

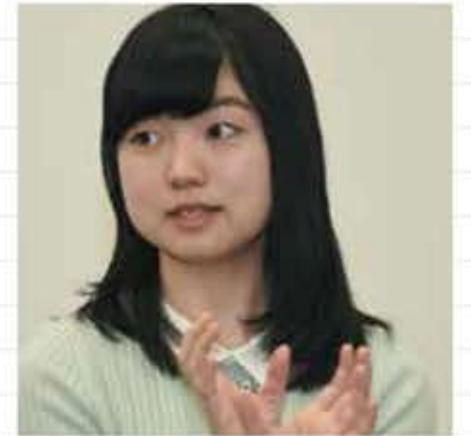
藤岡：僕は伸びた山が2つあります。最初は高1の終りから高2の序盤くらいにかけて、文法とか基礎がしっかり身についてきたと思えた時です。次は高3の一年間を通して。着実に伸びていることを実感していました。

高2の終り頃には受験に関しては大丈夫だと自信を持っていました。高3での伸びというのは受験以外にも応用が利く英語力がついたという感じでした。ですから、本番では英語には全く不安がありませんでした。

グノーブルの数学

立原：中学生の頃に数学の楽しさを教えていただいて、ずっとグノで続けてきました。

特徴的だったのは高3のIAIBの授業でした。前半は、問題を一つひとつ解いていくのではなく、問題を解くための道具を揃え、全体を俯瞰できる目を養いました。後半になってから、さまざまな問題に触れていき、いつどの道具を使えばいいかを判断する力を実践的に培えました。お陰様で、どんな問題にも対応できる実力がついたと思います。



長谷川 璃星さん (理II・立教女学院)

学校では東大専門塾に通っている人が結構いて、その塾に通う人しか通じない専門用語を使って会話していました。そういう姿を見ていると少し不安になることもありましたが、グノを信じてやってきて間違いなかったと思っています。

三田村：中1から数学でもお世話になって何より言いたいのは、「グノの数学は楽しい」ということです。グノの場合、英語が有名だと思いますが、実際に6年間グノで数学を学んできて、英語に負けないくらい良かったと思っています。受験でも大きな得点源になりました。

中西：僕がグノの数学に入ったのは高2の夏ですが、毎回、授業に向かうのが楽しみでした。最初は初習段階なので、知らないことを解説していただきますが、こちらの理解度を先生が把握しながら丁寧に進む授業だったので、これなら絶対嫌いになることはないと思えました。あいまいさが残ることが全くなかったのですっきりしました。

新高3になって出会ったIAIBの先生には最初だけ、圧倒されるイメージがありましたが、慣れれば本当にいい先生だと思えました。

し、すごい先生だと尊敬できるようになりました。

三田村：その先生は、最初のテストでわざと難易度を跳ね上げていたのだと思います。僕らが克服すべき高山を目の前にドーンと見せるというか。すごい山を見るとちょっとビビりますが、その山を克服する体力も技術も、その後の授業で培えたと思います。

立原：私も最初の授業はびっくりしました。問題は全然できなくて不安でいっぱいになりました。ところが質問や相談に行くと本当に親身になって教えてくださいました。何度も先生のところには行きましたが、私の性格や傾向をよく把握してくださっていて、その上でアドバイスをくださるので分かりやすかったし有難かったです。

グノーブルの先生について

村野：心から尊敬できました。英文の背景を掘り下げて、早口なのに分かりやすく解説していく様子に、いつもすごいと思っていました。いろんな知識が繋がっていて、どんどん出てくるのがあまりにも不思議で、授業後にどうしたら先生みたいになれるのかを聞きに行ったこともありました。

学校の仲間と同じ曜日に通うこ



藤岡 良輔さん (理II・本郷)

とが多かったのですが、いつも授業後に先生たちを捕まえて遅くまで帰しませんでした。復習していて疑問に思ったことや授業中に理解できなかったことを質問したり、進路について相談に乗ってもらったこともあります。嫌な顔一つせず、とことんつきあってくれました。

中西：どの先生もフレンドリーで親しみやすい先生ばかりでした。数学は特にたくさん質問をしましたが、すごい量の質問を抱えていても、話を簡単に終わらせようとしていたりすることも一切なく、懇切丁寧に教えてもらえました。

藤岡：僕も授業終わりに必ず質問に行った一人です。距離は近く、対応は丁寧というのがグノの先生の特長だと思います。

授業でメタ認知のプリントを扱ったことがあって、その時に話してくださった先生の話はすごく参考になりました。たとえば、「問題を解く時に、問題を解いている自分も客観的に俯瞰する視点を持つ」みたいなことですが、勉強に限らず自分の行動を客観視して事に臨んでいくことの重要性を学びました。授業後にも自分でいろいろ調べてみて、あらためてすごく役立つことを教えてもらえたこと感謝しています。

三田村：僕は中1から多くの先生にお世話になっていますが、グノの先生は一人残らず親しみやすく丁寧だという印象です。他塾だと、先生によってばらつきがあると思うんです。でもグノの場合はどの先生も、同じように丁寧で親しみやすさを感じました。これはすごいことだと思います。

立原：どの先生も個性豊かで魅力に溢れていて、「この先生についていこう」と思える方ばかりでした。教科の知識がすばらしいばか



三田村 侃樹さん (理I・芝)

りじゃなくて、全力で授業に向かわれる姿にも惹かれていました。

授業でもそう思いましたが、ある時、授業が終わって駅まで行ったところで忘れ物をしたことに気づいたことがありました。そうしたら先生が走って追いかけてくださっていて(笑)。あれだけ長い授業を全力でされて相当疲れていたと思うのですが、忘れ物を持って追いかけて来てくださる先生はちょっといいんじゃないかと思いました。

長谷川：先生たちは皆さん生徒思いです。少しだけ習っただけの先生でも、偶然会ったりすると声をかけてくれたり、とてもフレンドリーでした。大手だと「先生は神」という感じですが、グノの先生は全然違います。

あと、先生が授業中にキラキラしています。学ぶことの楽しさを体現しているような姿を見ていて、私もこんなふうになりたいと思っていました。

岡本：今思うと、要約も英作文も一回の授業での添削は結構な量です。それを毎回こなしていただいたことにはあらためて感謝の気持ちを覚えます。毎回の教材も、ちょうどよいレベルで、やりがいもあって、学習効果もあるものを準備するのは大変だと思います。先生

方には本当にお礼を言いたいです。

グノーブルのサポート

村野：直前講習の申し込みが遅れてしまって、気がついたら全講座が締切になっていました。そのときに受付で相談したら、こちらが遅れてしまったのに、嫌な顔もせず親身になって対応してもらえました。とても感謝しています。

藤岡：僕も受付の方には感謝しています。テストの時とか学校の行事が授業と重なった時など、授業の振り替えなどで融通を利かせてくださって随分助かりました。

中西：グノは警備の方も親切です。いつも気持ちよく挨拶をしてくださいました。

三田村：通常授業はもちろん、季節講習なども選択できるクラス設定が多くて授業に参加出来ないことはありませんでした。グノは生徒の事情を優先しているいろんなことを考えてくれていると思います。

立原：私は他科目で大手の予備校にも通っていましたが、所属の授業に出られないと、有料で映像授業しか受けられないんです。グノの融通の利く仕組みは本当に助かりました。

岡本：僕も振り替えできるのが有難かったです。授業の当日でも振り替えを許可してくださって、常に生徒優先で物事を考えてくださったところに感謝しています。

長谷川：私は前期が終わった時に「絶対落ちた」と思って相談したら、後期の過去問を添削していただけることになり、一日に何度もファクシミリのやり取りをさせていただきました。その度に受付の方から確認の電話をいただきました。迷惑をおかけしたと思うのですが、気持ちよく面倒を見ていた

だいたのがとても励みになりました。

後輩たちにアドバイス

岡本：受験のために勉強するのではなく、先のことを見据えて勉強すれば今がどんなに辛くてもきっと乗り越えられると思います。

長谷川：グノの教材だけで絶対に大丈夫と信じていたので、私は英語の問題集や参考書類は一冊も持っていません。私の場合、まずはグノの復習をしっかりやって、それから、グノで扱ったテーマで興味湧いたものに関連した原書を読んでいました。こんな風楽しんでやっても、東大の英語は余裕だと思います。グノを信じて勉強してください。



村野 隼也さん (理I・本郷)

立原：私は最後まで受験生らしい生活ではなくマイペースに過ごしていました。なぜ合格できたかを考えてみると、いつも目標を持って、そのためには今何をすべきか、優先順位が高いものは何かを考えながら計画を立てていたからだと思います。自分に合ったペースを見つけられたことが勉強の効率を最大化できた理由だと思います。

後輩の人たちは未習分野も多くて不安なこともあると思いますが、焦らずに着実にやっていけば絶対

に力は伸びていくのでグノを信じて頑張ってください。

三田村：学校の友人の中には塾を負担に感じながら通っていた人もいましたが、それでは自分のためにならないと思います。グノの授業を楽しみながらやっていけば力がついてきますし、東大合格も見えてくると思います。

中西：これは当然のことですが、グノに入ったからできるようになるのではないので、授業に参加して、その日の内容を理解して、それを復習で自分のものにする、というサイクルを守っていくことが大切だと思います。それさえできていれば、英語と数学については大丈夫です。不安は最後まで消えないと思いますが、そこは自分のやってきたことを信じて頑張ってください。

藤岡：グノに通って英語を得意にしておけば、東大を含めて、あらゆる大学受験で有利になると思います。グノの英語は絶対の信頼ができるので、信じて、がっつり英語をやって得意にしてほしいと思います。

あと、模試などの結果については、「都合の良い現実だけを受け容れよう」というのがお勧めです。結果が悪かったとしても、「これは無かったことにしよう」くらいに考えて(笑)。そこからまたポジティブにやるべきことをやっていくことがいいと思います。

村野：英語に関してはグノの復習や音読をやっていれば問題ありません。他教科については、まずその分野に興味を持って楽しむことに主眼を置けば、苦にならず勉強ができるんじゃないかなと思います。焦ることなく、基礎的なところからしっかり積み上げていけば、東大の問題は恐れることはありません。

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

Part 1



井上 洋輔 さん
(慶應大・麻布)



福田 康孝 さん
(筑波大・海城)



間瀬 太郎 さん
(慶應大・筑波大附属駒場)



松田 光生 さん
(千葉大・海城)



横山 雄大 さん
(千葉大・麻布)



渡邊 素子 さん
(京都市立医大・桜蔭)

Part 2



宇佐美 友梨 さん
(東北大・田園調布雙葉)



隠岐 公大朗 さん
(横浜市立大・開成)



黒畑 秀馬 さん
(群馬大・開成)



星野 夏希 さん
(横浜市立大・女子学院)



山崎 恵梨子 さん
(信州大・桜蔭)

井上 洋輔 さん (慶應大・麻布)
 福田 康孝 さん (筑波大・海城)
 間瀬 太郎 さん (慶應大・筑波大附属駒場)
 松田 光生 さん (千葉大・海城)
 横山 雄大 さん (千葉大・麻布)
 渡邊 素子 さん (京都市立医大・桜蔭)

この人の言うことは信頼できるという思いを持てるのが大事だと思います。その説得力がグノの先生たちにはあると思います。

井上 洋輔 さん (慶應大・麻布)

医学部を目指した理由

井上：医学部を志望したのは、親類に医師が多く身近に感じていたということが一番なのですが、麻布のOBで医師として働いている人から、「医師の背後には、学術的な研究があり、産官学の協力がある。そういう幅広いものを踏まえて患者さんと向き合っていくのが医師だ」と聞いたことも大きいです。挑戦しがいのある仕事だと思えて志すことにしました。

福田：僕はボランティアが好きで、人の役に立てることを将来の仕事にしたいと考えていました。祖父が亡くなったときに、必死に治療をしてくださった医師の方々に感謝の気持ちを抱いて、医師という職業は社会的に価値があるし、人からも感謝される職業だと思い医師を志しました。

間瀬：中学の生物の授業で遺伝子について学んだことが医学に興味を持ったきっかけです。その後、高1の時に病気になった祖父が手術で快復したことがあって、そのときに抱いた医学への気持ちや、かかりつけの医師の豊かな人間性に対する憧れなどから医師を目指すようになりました。

横山：僕も、小4の時に祖父が心臓の病気にかかり、大学病院でお世話になりましたが、その後の快復ぶりにとっても感動したことがありました。それ以来、人の命を助けるだけでなく、元気にもすることが出来る医師という仕事に興味を持ち、自分の進む道として考えました。



井上 洋輔 さん (慶應大・麻布)

松田：うちは十数代医師が続く家系なんです。両親からは「好きな仕事をしなさい」と言われていたのですが、祖父からは「絶対に医者だ」と言われていたもので、医学部選択は必然でした。むしろ医師

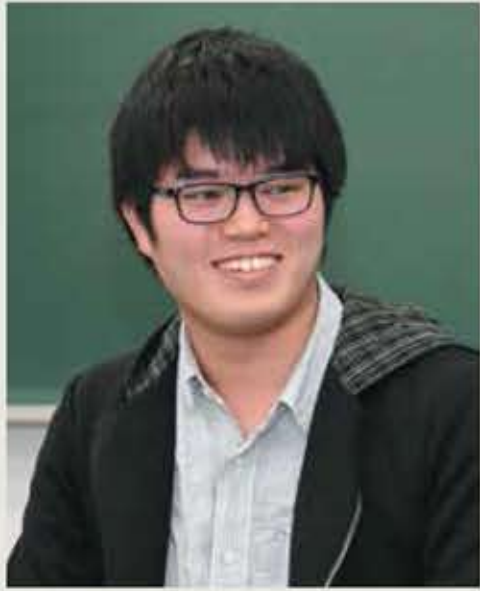
以外の仕事を知らなくて(笑)、何をすればいいのかわからなかったというところもあります。

渡邊：人と話すことが好きで、人とコミュニケーションを取りながら、人を助けられる仕事がしたいと小さな頃からぼんやりと思っていました。高校生になって理系の勉強が面白いと感じるようになり、そうした気持ちと自分が小さな頃から漠然と持っていた夢が結びつくのが医師ではないかと思い医学部を選びました。

入塾のきっかけ

渡邊：高1の春のフレッシューズ講座から、母からの勧めで入りました。それまでは塾に通ったことがなく、試験前に教科書の英単語を覚える程度でしたが、周りの人も塾に通っている人が多く、大学受験のことを考えると塾に通った方がいいのかなと思い入塾しました。

横山：高1の秋から、まず英語と数学で入りました。きっかけは代々木駅でグノのポスターを見たことです。気になってネット調べて、「僕の最悪の英語に救世主!」と思いました(笑)。数学もいっしょに受けてみたら、フレ



福田 康孝さん(筑波大・海城)

ンドリーで分かりやすく、他の塾を検討することもなく数学もグノに決めました。

物理は高2の夏期講習からです。決め手となったのはグノの文化のようなものです。それまで英語と数学でお世話になっていて、「この塾なら間違いなし」という手応えがあったので、きっと物理もいじらうと思いました。

松田：高1の時に大手の塾に入りましたが、もともと英語が得意じゃなくて、授業を聞いていても眠くなってしまい、成長もできなかったもので、高1の終わりでやめました。新しい塾を探し始めた時に、英語の成績がいい学校の友人が、「グノはすごい」と言ってくれたので入ってみようと思いました。

間瀬：僕が入ったのは中3の夏です。それまではピアノをやっていて塾には通っていませんでした。それでも学校の成績は上から20番くらいだったんです。ただ英語だけ悪くて、母が学校の親同士のつながりでグノのことを聞いて来たんです。それが入塾のきっかけです。

福田：僕は高3を前にして英語がまるでできなくて、受験まで残さ

れた時間も短く、どうしようと思っていました。そんなとき、グノに入って英語がどんどん伸びた学校の友人の話を聞いて入塾テストを受けました。ところが2回も落ちてしまい(笑)、3度目の正直で受かりα5*になんとか入れたんです。もう、高3の夏になっていました。

受験まで時間がない中、グノにこだわった理由は、大手予備校の授業では、大勢の中で座り続けても力を伸ばせる自信がなかったからです。グノは授業中にも質問ができるし、授業外でいつ先生に質問しても丁寧に答えてくれると聞いていたので、何としてもグノに入りたいと思っていました。

井上：僕は浪人なので、グノには2回入っているんです。1回目は中3の時、一からグノで英語を学び、英語塾の標準がグノでした。現役では大学受験に落ちたので、今度は大手予備校に通い始め、いわばそこで「世間の標準」というものを学んだわけです(笑)。現役の時にいかに恵まれた環境だったかと思い、夏期講習から改めてグノに入り直しました。後輩もた



間瀬 太郎さん(慶應大・筑波大附属駒場)

くさんいるので恥ずかしいという気持ちも頭をよぎったのですが、自分の将来を考えれば正しいと思える選択をしようと考えました。

入塾の決め手

井上：最大の要因は指導方針の統一です。大手予備校ではたくさんの英語の先生がいらっしゃる、それぞれに違う教え方をします。大手だから豊富な経験が蓄積されているわけではなく、どうやら指導は先生に任されているらしいと思いました。

一方グノでは先生によって方針が変わることはありません。授業の進め方も、語源からの単語の説明も、丁寧に添削してもらえるところも。いわば智恵が結集されて洗練されていると思いました。

また、大手では100人単位の授業なので質問をすることなど不可能です。先生は一人ひとりの実力を把握していないので的を射たアドバイスを受けることができません。「模試の結果を持って来てください」と言われてしまうんです(笑)。

グノでは毎回添削していただいているし、授業中のやりとりも頻繁なので、相談にいけばすぐに明快にアドバイスがいただけます。他を体験したことで、あらゆる面でグノの良さが際立ちました。

福田：これまで授業の中で演習をしたことはありませんでしたし、それを授業内で添削してもらえることにも驚きました。質問をにしても予備校だったら講師室の前に並ばなくてはならず、堅苦しく質問しにくい感じでした。しかも、簡単な質問だとかっこが恥ずかしいと思わされるような対応が普通です。グノなら授業前や授業

後でも、電話で質問しても、いつでも、どんな質問にも丁寧に答えただけでした。

授業中の解説時も、グノの先生はこちらを当ててくれて、そのやりとりで進むので絶対眠くなりません。

松田：授業のスピード感が違います。予備校では、一文ずつ構文の解説があってゆっくり進むので、こっちで気を張っていないと眠くなりました。グノは授業のテンポが早くても内容はしっかり入ってくるので、「ここならいける!」と思いました。

渡邊：私は他の塾に通ったことがありませんでしたが、スピーディーに進むのに分かりやすい解説で、「こういう勉強のやり方もあるのか」と、グノに入ったときに感動したのを覚えています。

グノーブルの英語

渡邊：英単語の解説が語源までさかのぼっていくところはグノならではの点ではないでしょうか。英文の解説も一文一文のポイントに触れるだけではなく、全体の主旨や背景にまで渡って教えてください。グノで解説を受けると、英文全体の意味がよく理解できて本当にすっきりします。

間瀬：英文のバックグラウンドまで踏み込んだ解説が聞けると、知的な満足感が得られます。それに、全体がこんなにクリアに感じられる経験ができるのは快感です。僕は英文を読んで難解すぎる医学書を読んでいるみたいになるのは嫌だったんです。

横山：単語帳を使っただけの学習がいかに効率悪いかは、グノに来て実感しました。語源までさかのぼっての解説は斬新で興味が持てまし

たし、単語の成り立ちを教わると、知らない単語が出てきても、語根や前後の流れで推測もできるようになります。

松田：僕はグノに入る前から自分なりに英文を読んで前から意味をとっていきというやり方をしようとしていました。グノはそのやり方に磨きをかけてくれる、まさしく自分の理想の塾だと思いました。

単語の説明もすごいと思っていました。語源の説明のとき、先生が黒板に絵を描いたり、前の方の生徒を巻き込んでまで体も使って表現してくれたりするのは、印象深かったし、記憶にも残りやすくて好きでした。

福田：他塾だと構造解析するところに集中し過ぎているし、設問の解答は分かっても、英文全体の内容が曖昧なまま授業が終わることがほとんどでした。

その点グノの英語は、全体の主旨を読み取ることが第一義で、必要に応じて文法説明だったので、日本語の文章を読んでいるのと同じように英文を読めるようになっていきました。

もう一点グノらしさを挙げると、他塾だと50分の授業でもとても



松田 光生さん(千葉大・海城)



横山 雄大さん(千葉大・麻布)

長く感じますが、グノの授業は2時間授業が毎回延長になってもそれに気づかないくらい集中できます。

井上：グノは当たり前のことを普通にやっていると思うんです。要約はたくさん経験積めばいい、ライティングもたくさん書けばいい。授業の中で僕たちは全力で答案を書き上げるし、先生はそれを全力で添削してくれる。それがグノのスタンスだと思います。添削されたものは、僕たちに「書いた感覚」が残っているうちに返却されます。少人数でなければこれは成立しません。

読んだばかりの英文を、僕たちの中でまだ熱い感覚が残っているうちに解説する。これもグノでは当たり前を実現できていることです。

グノの先生には授業に対する熱意があります。もし、先生に熱意がなくて、どうでもいいことのように授業をしていたら、僕たちがそんな授業に熱意を持って応えようとは思えないはずなんです。先生にこれだけの熱意があるからこそ僕たちも応えたいと思うのは、人と人のつながりとして当たり前なことだと思います。

*受験学年の英語は、α(最上位)から、α1、α2、α3、α4、α5の設定でした。

英語の楽しさ

福田：グノの先生が教えてくれる語源ネタについて最初は戸惑いました。ラテン語や古典ギリシア語の話なんて「英語オタク」的で、「この話は役に立つのかな？」と思ったこともあります。ところが、自分がすでに知っていた単語にも同じ語根が入っていることを発見したり、新しい単語が劇的に記憶しやすくなったことに気づいたり、英語にどんどん興味を持てるようになって、僕自身「英語オタク」に近づきました。

短期間のうちに、英語を前から読んでスラスラ理解できるようになれたことも嬉しくて、英語を読むことが楽しくなりました。結果、わずか3か月の間で模試の偏差値が10も上がりました。やはり英語が好きになって「楽しい!」と思えることが英語の力を伸ばす秘訣じゃないかと思います。

間瀬：グノの英語の特徴は音読にあると思うのですが、先生は「人に伝えるように音読」とよく言っていました。それを実際にやっているうちに気づいたのは、英語ってリズム感がとてもいいんです。僕が音楽をやっているせいかもしれませんが、そのリズムを感じるのがすごく楽しかったです。

もう一つは授業をしている時の先生が楽しそうでした。先生が、受験のための英語ではなく、言語としての英語を教えているということがひしひしと伝わって来ました。文法重視の受験勉強ではなく、書かれている英文の内容に焦点を当てていくので、純粋に知的な楽しさがありました。

横山：僕の場合も、英文がスラスラ読めるようになってきて、それが楽しくて仕方なかったです。そ

れもやはり音読を始めてからです。グノに入るまでの英語は最悪で、学校のテストでもまるで点がとれなくてひどい有様でしたが、グノに入って得意科目になったし、得点源にもなりました。

井上：英語圏の人々の思考方法を知ることができる。ここがグノで英語を学ぶ醍醐味です。英語は結論が先で、その背景を後で述べます。このあたりは日本語と完全に違います。英単語や熟語の成り立ちから、日本の文化とは違う発想法も見えてきます。そういう違い



渡邊 素子さん(京都府立医大・桜蔭)

をいろいろ指摘して教えてくれることが面白かったのと、時事的なトピックでも、グノで扱う教材で英語圏からの視点が分かります。日本文化のフィルターを通していない視点に触れられて、広い世界が垣間見えたり、英語を学ぶ重要性も感じられました。

松田：僕はもっと単純な話なのですが、先生が授業中に当ててくれるのを楽しんでいました。周りの人が答えられないことを自分が答えた時はちょっと得意でした(笑)。自分には分からないこと

を他の人が答えた場合は悔しくて「もっとやらなきゃ!」と思えました。

添削してもらえることも刺激になりました。添削の課題がうまくできないと先生に申し訳なくて、「次に向けてもっと頑張ろう!」と思えて、どんどん勉強する気が起きました。

以前は、英文を見ることすら嫌だったのですが、グノに入ってから、英文を読めるようになったので英語を見るのが全然苦じゃなくて、むしろ楽しいものになりました。前の予備校のときは、授業に行くのが嫌で休みたくなっちゃったんですけど、グノの授業は一回でも休むのがもったいなくて、学校行事があってもグノの授業だけは休みたくないと思っていました。

渡邊：私はセンター試験のために倫理を勉強していて哲学のことを少しかじっていたんです。そこで勉強していたことが、グノの英語の授業で扱われたことがありました。それでハッとしたのが、受験勉強をしていて、それぞれの科目は別々のものだと思っていたのが、実はいろんなつながりがあるってことです。今まで見えていなかったつながりが、グノの先生が英文にまつわる様々な話をしてくださるので見えてきたんです。グノで英語を学んでいなかったら、受験英語もバラバラな科目の一つに過ぎなかったかもしれません。あらゆるものがどこかでつながっていると思ったら、一見つまらない受験科目も、私が目指す医学につながっている可能性もあるような気がしました。

英語の伸びを感じた時期

渡邊：私の場合は気がついたら伸

びていたという感じです。高1の頃にはセンターレベルの英文でもつまづいていたのが、いつのまにかもっと難度の高い長文でもスラスラ読めるようになっていました。振り返ってみれば格段に進歩してきたと思います。

横山：僕の場合は、高2の10月の模試と12月の模試で偏差値が20ぐらい上がりました。部活一辺倒の毎日から復習をやるように変わって、一気に成績に表れた感じでした。音読中心の復習を始めて、それ以降は受験まで毎日欠かさずやっていました。音読をやっていると英語に慣れるというか、英語脳になるというか、英文が読みやすくなります。英単語も一つひとつ覚えるより効率的に覚えられました。

松田：ずっと数学が得意だったのですが、高3始めの模試で英語が数学を超えて、「英語の方が得意なんじゃないか」と思うくらい伸びていました。

高2からグノに入って、最初は復習のやり方など自分の中で試行錯誤した部分もあったんですが、毎日寝る前に必ず音読をするようになって着実に伸び始めたと思います。音読のやり方は先生がおっしゃった通り、「解説を聞いて完璧に理解できている英文を人に伝えるように」というやり方です。



井上 洋輔さん(慶應大・麻布)

間瀬：英語とはどんなものかが分からない状態でグノに来て、直後には学校の成績もぐいと上がりました。その後は知らず知らずのうちに伸びていたという感じです。グノにいと周りに優秀な人がたくさんいて実感しにくいんです。

福田：僕はグノに来て劇的な伸びを実感しました。センターの英語は80分ですが、高3になっても僕は時間内に終わらなかったのです。12月頃には50分ほどでできるようになっていました。本番でも筑波大の問題は120分でしたが60分からはなれないで解き終わってしまい、じっくり見直してもまだ時間が余るくらいでした。

伸びた理由はグノの授業内の演習です。一番下のクラスだったので他のクラスより演習時間は長かったと思いますが、僕にとってはものすごく短い時間で2000語ぐらいの英文を一気に読んで理解しなければならぬということでした。同じクラスにライバルだと思える人がいて、その人の存在も大きかったと思います。**井上**：音読をすれば伸びる、しなければ伸びない、これが僕の経験則です。音読のときの心掛けとしては、文章の内容と構成に重きを置くことです。作者の主張点がどこで、補強にすぎないところはどこか、それをちゃんと意識して音読することが大事です。

それを続けていると、初見の英文でも、書き出しの雰囲気を見ただけでも、文章の構成が瞬時に判断できます。見抜く目が備わってくれば音読の効果が表れた証拠だと思います。僕の場合は、高3の2学期の3回目分岐点で、その時の要約が8点で、それ以降は一度も7点以下にはならずにごせました。この力があると、ど



福田 康孝さん(筑波大・海城)

んな長文でも素早くて正確に読めるようになります。

グノーブルの先生について

間瀬：僕は結構グノ歴が長いので、6人の先生にお世話になりましたが、皆さん個性的でした。それぞれの先生のパーソナリティみたいなものが授業の雰囲気にも表れていてそれぞれ楽しかったのですが、どの先生にも共通して言えるのは、単に英語を教えているのではなくて、授業自体を、楽しく集中できるものへと演出する努力もされていたことだと思います。

渡邊：私もいろいろな先生にお世話になりましたが、皆さん早口で、もっと多くのことを教えたいという気持ちが伝わってきて私はそれが好きでした。

松田：グノの先生は、どの先生も生徒の名前をすぐに覚えてくれますし、生徒との向き合い方というのは変わりません。授業では、先生の熱意が伝わってきたので、悪い結果では申し訳ないという気持ちになって、先生の期待にも応えたくて一生懸命勉強しました。

横山：グノの先生に共通していたのは、フレンドリーで質問にいきやすいところでした。数学の先生の中に、第一印象だけ近づきづらい

感じの先生もいましたが、一度質問に行ってみたら、やっぱりフレンドリーで話しやすい先生だと分かって、とても頼りにしていました。

井上：高2から3人の先生にお世話になりましたが、どの先生も人としての魅力があるので、話を聞きたいと思って、信じてついていこうと思えました。成績を上げるためには、結局は僕たちが努力するしかありませんが、その前にこの人の言うことは信頼できるという思いを持てるのが大事だと思います。その説得力がグノの先生たちにはあると思います。

福田：僕は半年間という短い在籍だったので、2人の先生しか教わっていないのですが、読解の先生は誉めることが上手です。僕は英語が苦手だったこともあって、それまで誉められたことがないんです。そんな僕をグノの先生は誉めてくれて、「よし！英語を頑張ってみよう！」という気持ちになりました。

作文・文法の先生は、グノの卒業生ということもあり、ご自分の経験談などもまじえて応援してくれました。その先生は、僕が間違えた答えを言うときにこりされまです。先生は間違えても大丈夫という気持ちだったと思うのですが、僕

の方では「何くそ」と思い、「次は絶対間違えないぞ！」と先生に挑むように取り組んでいました。

グノーブルのサポート

井上：グノは振り替えも含めていろいろな面で融通が利きました。他の塾では振り替えできませんから、グノの柔軟さはとても助かりました。その窓口になるのは受付の方たちですが、いつも気持ちよく対応してもらえました。

福田：授業を受ける側としては、とても快適な環境を整えてもらっていたと思います。トイレはきれいだし、壁に落書きもなければ、机がガタつくこともありません。教室の温度管理も先生の一存で決めるようなことはありません。さまざまな部分で心配りが感じられてとても良かったです。

間瀬：僕も中3で入った時に、教室のきれいさに衝撃を受けました。グノの机はやる気が出ます。家の机も同じ色に変えたくらいです（笑）。筑駒みたいに行事が多い学校でも、グノの授業は両立できます。振り替えの柔軟さもそうですが、宿題の量も適度です。塾の中には、宿題をやらせるための塾なのかというくらい宿題が多いところもあります。宿題の量で追い込むんじゃなくて、グノの場合は勉強の楽しさで効果を上げる塾なので、学校行事や部活とも両立しやすいと思います。

筑駒は11月の文化祭を高3生が中心にやりますが、塾に全く来られなくなるほど忙しい人もいます。グノの先生は、そういう人のこともちゃんと気にかけてくれて、ちょっと感動しました。

松田：振り替えが利くのはとても有難かったです。予備校などでは



松田 光生 さん (千葉大・海城)

映像授業になってしまいますが、グノはいつでも生の授業が受けられるのは大きなメリットだったと思います。

横山：高1の秋から水泳部の部長になったので、勉強と学校生活を両立させるのはなかなか難しかったです。ただ、グノには休まず通っていたので部活をやっている間は授業だけでなんとか学力をキープしていた感じです。もし大量の宿題が出る塾だったらとても続かなかったと思います。

渡邊：私は、定期考査のときに振り替え制度を使わせていただきました。学校の勉強もグノの勉強も両方大事だと思っていたので、どちらも犠牲にしないで済んで助かりました。

医学部の面接

渡邊：先生が3人いて私が1人で向き合うスタイルの面接でした。先生方がにこやかで安心できました。

正直なところ他の科目が切羽詰まっていたのであまり面接対策はできませんでしたが、過去にどこかの大学でどんな質問をされたかとか、最近あった医学関係の出来事や用語などは頭に入れていました。

実際にはあまり難しいことは聞かれませんでした。なぜこの大学

を選んだか、なぜ医師を目指すのかといったごく基本的な質問と、あとは、部活のことを聞かれました。想像していたよりもずっと優しく話を聞いてもらえた印象でした。

横山：事前に千葉大の面接内容をネットで調べて、その答えを箇条書きで用意する程度の準備しかしていませんでした。実際の面接ではDVや孤独死などについての文章が書かれたペーパーを渡され、それについての問題点と対策を3分間で考えてから話すというものでした。一般的な世の中の出来事や問題について、日頃からどんなことを考えているかという部分を見られたような気がします。

松田：僕も千葉大なので面接の形式は同じです。僕に与えられたペーパーには、代理母のことやいじめ問題についての文章が書かれていました。その場で考えるしかないものですから、千葉大に関しては、短期的な面接対策はあまり意味がないかもしれません。

間瀬：母親とも相談して、黒くて大人しいフレームのメガネを用意して、服装にも気を遣って面接に臨みました。もちろん、過去の面接の内容も調べ、それについての答えるべき内容も考えて準備しました。僕でも面接は緊張したので（笑）、緊張しやすい人は模擬面



横山 雄大 さん (千葉大・麻布)

接のようなものを体験しておくことをお勧めします。

福田：筑波の面接時間は10分ですが、200/1100点と相当大きなウエイトを占めます。10分でどれだけ筑波に入りたいかをアピールするために、僕なりに対策をしていました。

その対策は活かされたのですが、小児科志望であることを伝えたら、小児科の大変さへと話題が移りました。「昼夜問わず医療に携わる点はどうか」、「モンスターペアレンツとか医療訴訟についてはどうか」などのことを聞かれ、予想外で戸惑いを覚える質問もありましたが何とか答えきりました。

緊張しないためには事前の準備をしておくことや、日頃からアンテナを立てていることが必要だと思います。最低限の医療トピックなどはもちろんのこと、自分が志す分野のことも調べておけば、精神的にも落ち着けると思います。

井上：医学部の志望理由を、説得力を持って話せることは最低限必要なことだと思います。自分では論理的に話せていると思っても、検証は必要なので、予備校の面接対策に行ってもいいし、親でもいいと思うので、実際に話してみるのがいいと思います。

僕の場合は、現役の時は面接で落ちて、浪人の時は面接で受かったと思っているのですが、面接で大事なものは、まず緊張せずに胸を張ること、これは大前提です。もう一つは自分がその大学に入りたい気持ちをどれだけ強くアピールできるかです。入りたい気持ちの強い人を大学側でも求めるはずだと思うからです。大学についてしっかり調べておくことも、この大学に入りたくて強く思うことも大切だと思います。



渡邊 素子 さん (京都府立医大・桜蔭)

後輩たちにアドバイス

渡邊：まずはグノの授業に集中することです。あれだけ濃い内容なので、あとで復習すればいいと考えるのではなくて、授業のときに集中して、身につけられることは全部身につけてしまうという姿勢で臨むのがいいと思います。

医学部を目指すなら、センターも含めていろんな科目が満遍なくできることが大切です。先走って難しいことにチャレンジするより先に、基礎を固めて焦らず勉強することが大事だと思います。

横山：生活習慣に気をつけるべきです。僕は本番の前日に深夜3時頃に寝てしまって、朝起きて精神的にも不安定な状態でした。本番の一週間くらい前からは規則正しい生活を心がけて欲しいと思います。

松田：僕は出願の直前まで2つの大学で迷い、出してしまった後にも後悔しました。この時期に勉強に専念するためにも、志望大学については早いうちから調べておくことが大事だと思います。

間瀬：グノの英語は特定の大学や医学部受験で得点を上げる勉強をするわけではなく、英語力そのものを高めるというスタンスです。僕自身も、大学受験があるからと



間瀬 太郎 さん (慶應大・筑波大附属駒場)

いうより、これから先に英語を使いこなす土台づくりとして英語力を上げようと勉強に取り組んでいました。そういう考えでやっていたら、結果として大学受験に必要な以上の英語力が備わるので心配いらないと思います。

勉強全体で言うと過去の成績の良し悪しを気にしても仕方ありません。自分がこれから変えられることに全エネルギーを注ぐことが大事だと思います。

福田：もし、これを読んでいる人で、グノに入っていないと英語で

困っている人がいたら、一番下のクラスであっても、すぐにグノに入るべきだと思います。食らいついていけば必ず効果が出ます。

それから、長時間だらだら勉強するなら、短時間集中して、後は気分転換した方がいいと思います。僕自身は3時間が集中の限界で、一休みしたらまた3時間やってという勉強のやり方でした。勉強時間も大事ですが息抜きも必要です。

井上：英語は音読をすれば伸びます。半信半疑にやるのではなく、先生がおっしゃるやり方で、全力

で音読を継続するべきです。

充実した学校生活を送って欲しいとも思います。僕は最初の受験で浪人が決まった時、自分自身に「もっと受験勉強に専念すれば良かったのでは」と問いかけました。でも、部活や生徒会活動を通じて充実した学校生活を送って来たことは良かったというのが結論でした。

もう一つは、現役の時は、受かる大学ではなく、自分が受かりたい大学を受験すべきだと思います。中途半端に妥協せず、自分の思いを最後まで貫いて欲しいと思います。

9期生 合格者インタビュー

国公立大学 医学部

Part 2

うさみ ゆり
宇佐美 友梨さん(東北大・田園調布雙葉)

おき こうたろう
隠岐 公大朗さん(横浜市立大・開成)

くろはた しゅうま
黒畑 秀馬さん(群馬大・開成)

ほしの なつき
星野 夏希さん(横浜市立大・女子学院)

やまざき えりこ
山崎 恵梨子さん(信州大・桜蔭)

これだけ距離が近いと、先生を使い倒せる場所があって、いつも先生に授業が始まる1時間も、ときには2時間も前から質問につきあってもらいました。

隠岐 公大朗さん(横浜市立大・開成)

医学部を目指した理由

宇佐美：一生続けられる仕事につきたいと思っていました。私自身は健康に恵まれていますので、患者さんの健康回復を手助けできる医師になりたいと思いました。その上で、小学生の頃から脳の仕組みにも興味があったので、脳の研究に力を入れている東北大学を志望しました。

隠岐：パソコンやスマホが普及している時代ですが、正しく使わ

いと目を悪くしてしまいます。僕自身も視力が下がっていますし、生活に不便を感じることも少なくありません。ただ、こうした機器に頼らなければ生活していけないというのも実情です。現代人の目を守るために医学部を志しました。

星野：私はもともと生物系の学問に興味を持っていて、その中で進路を決めることに迷っていた時、医師という仕事は人を助けて社会の役にも立てるということもあり、一生モチベーションを保ち続けら

れるだろうと考えました。

黒畑：医学全般に興味があって医学部を目指しました。臨床医になるか研究の方に進むかはまだ決めていません。

山崎：私はもともと生命科学系の研究に携わりたいと考えていて、東大の理Ⅱとか東工大の第7類とかを考えていました。高2の冬になって自分の進路を改めて考えた時に、人の助けになりたいとか、人と関わりを持つ仕事につきたいという気持ちが強くなって医学部

を志望しました。今は臨床医になりたいと思っていますが、その一方で研究を続けている医師の方もいると聞くと、そういう道もあるかなと思います。



宇佐美 友梨さん(東北大・田園調布雙葉)

入塾のきっかけ

山崎：グノに入る前は、英語がものすごく苦手で、他の科目の足を引っ張っていました。「英語が楽しい」と感じたことはただの一度もありませんでした。高2の冬に、学校の友だちから「グノの英語は楽しい」と聞いて、それで、高2の1月に授業を受けてみました。今までに経験したことのない授業で、すぐに気に入りました。

桜蔭では高校になってからグノに通う人が急に増えていたようです。通っている人が、授業や先生のことを楽しそうに話題にする塾はグノの他にありませんでした。

星野：私は中3の冬期講習からです。英語が好きで得意な方だったので、さらに力を伸ばしたいと思い学校の友人に聞いたら、「グノ楽しいよ」と勧められました。最初は、合わなかったらやめれば

いいと思って講習を受けてみたら、本当に楽しくて気に入りました。

高校になると、周りでもグノに通い出す人がどんどん増えました。学校の英語の授業は、レベル別に分かれていましたが、一番上のクラスにはグノ生が多くいて、「グノに通っている人は英語が強い」というイメージも広がっていたと思います。

隠岐：高1の春に友人の紹介で入りました。当時は英語が苦手で、学校で英語の評判が良かったグノに決めました。開成では校内模試の成績優秀者は、100傑表というプリントになって配られます。英語の表にはグノに通う人の名前が結構登場していて、「やっぱりグノは強いんだな」と思っていました。

黒畑：高2になる頃、理科の勉強をまだ始めていなくて不安な気持ちもあり、英語は得点源にしておきたいと思っていました。母親が



隠岐 公大朗さん(横浜市立大・開成)

らグノのことを聞いて春期講習に行ってみました。その時の授業がすごく面白くて、「ここなら続けられそうだな」と思っていました。



黒畑 秀馬さん(群馬大・開成)

英語の100傑表にグノに通う人が何人も出ていたことも、授業を受けてみて、なるほどと感じました。

宇佐美：高2の冬に入りました。高1まで得意だった英語の成績がだんだん落ちてきて母に相談したら、いろいろ調べてくれてグノを勧められました。私の学校でグノに通っている人は多くはありませんでしたが、友人の一人がすでにグノに通っていて、その子も「すごくいいよ」と言っていたのでグノに決めました。

グノーブルの英語

宇佐美：授業中に演習をして、それをその場で添削してただけで、すぐに解説を受けられるという仕組みは、本当に効率がいいしやる気も湧くと思っていました。一回で扱う英文の量が多くて、英文の内容がいろんな分野に渡っているのが興味がつきないのも特長です。

山崎：グノに入る前1年ほど、大手の予備校に通っていたことがあります。そこでは英文を区切って構文の解説をする授業だったので、文章の内容は頭に入って来ません

でした。英文の語順通りに意味を取っていくことについては触れられませんでした。授業に出席していても、英文を読む楽しさは全く感じられませんでした。

グノの英語は、英文を前からどんどん解釈していきますし、文章全体を俯瞰して解説してもらえます。バックグラウンドまで説明してもらえると、英文の内容への興味も生まれ、授業を受けていること自体楽しめます。面白いと思える英文だと復習するときも楽しいし、復習そのものも苦痛な暗記をするわけではなくて、音読が復習の中心なのではかどりました。

黒畑：音読は確かに楽しいし、効果も抜群です。先生が用意してくださる英文は興味深いから楽しいということもありますが、英語をすらすら声に出して読めるようになっていくのも楽しかったです。

楽しいことをやっていたら成績も上がりました。グノに入る前は学校でも英語は下の方にいたのですが、音読をするようになって成績が目に見えて上がりました。

星野：私も大手予備校で授業を受けたことがありますが、完全に受

験英語で、文法や単語を重視して文の構造をいちいち確認するという授業でした。グノで授業を初めて受けた時に、英文は語順のまま前から意味をとっていくということを教わって衝撃を受けました。グノは受験英語ではなく、言語として英語をとらえているので、指導方針も独特です。

英語と日本語では、言葉の並びが全然違います。音読を続けているとその語順にどんどん慣れていきます。読んだり聞いたりするのも得意になれますし、書くときにもすらすら英語が出てくるようになって、ネイティブの感覚に近づけているみたいで嬉しかったです。学校の試験でも、模試を受けても、英語は毎回安定して点をとれるようになりました。

隠岐：グノの英語の特徴は、僕の成績が伸びた秘訣でもあるんですけど、やはり音読です。音読が大事なことはどこの塾でも言いますが、グノの場合は、音読の効果を最大限に引き出す仕組みが授業から復習へとつながっていて、他で言う音読とは別物です。お手本になる音声教材はMP3でダウンロードもできるし、YouTubeでも配信されていて、僕たちを応援する仕組みも整っています。

宇佐美：大学受験の先まで考えているのもグノの特長だと思います。私はAO入試も受けたのですが、そのときに英語の論文を、限られた時間で読み込む必要がありました。すらすら論文が読めて、本当に英語力が付いていることを実感しました。書くことに関して、グノでたくさん添削してもらえたので、いろんなことが不自由なく書けるようになったと思っています。

星野：グノの英語は、授業中に使



山崎 恵梨子さん(信州大・桜蔭)

う英単語のレベルも高く、もちろん文章の内容も高度です。それらを大量に読んだり書いたりしてきたので、医学部に進んで今まで以上に英語が必要になっても十分な基礎力については持っていると思っています。

英語の伸びを感じた時期

隠岐：高3の読解の授業のおかげで、英語力が大きく上がったと感じています。筆者が選んでいる言葉づかい、使われているレトリック、全体の構成などに対する先生の解説は本当に鋭くて、それを聞くだけでもグノに通う意義はあると思います。先生の解説を意識しながら音読を続けているうちに、行間まで見える読解力が身についたと思います。

宇佐美：私も高3になってから、自分ではかなり英語力が付いたと思えるようになりました。グノの授業中は周りの優秀な人たちに圧倒されっぱなしでしたが、学校や模試の成績には力が付いてきているのが表れていました。

山崎：高3の最初にクラスが上が

って気づかされたのが、添削用の答案を仕上げるのが自分だけ遅い、ということでした。それまでの教材を復習し直し、音読をかなり頑張りました。

音読で心掛けていたのは、なるべく止まらないことです。一度止まってしまうと、そこで日本語変換して考えてしまうので、なるべく止まらずに頭の中でありありとイメージしていくようにしていました。シャドーイングもかなりやっていました。

秋ぐらいには読むスピードが格段にあがり、模試でも英語の成績は大きく伸びました。本番でも、問題を解きながら、「これはイケたな」と自信を持って答案を書くことができて良かったです。

黒畑：「伸びたな」と感じたのは、高3の最後のクラス分けテストでクラスが上がった時です。僕の場合、音読を毎日の締めくくりとして習慣化していたので、寝る前は常に要約のプリントを音読していました。読んでいると、授業で先生が言っていた大切な指摘がふっと思い出されることもよくあり、そこに注意しながら毎晩やっていました。

星野：私は朝起きてすぐに音読をしていました。私も、先生の解説をよく思い出していました。あと、



宇佐美 友梨さん(東北大・田園調布雙葉)

なるべく日本語を頭から追い出すことと、堂々と話すことを心掛けていました。

私もグノの授業では周りの優秀な人になれないと思われたこともかなりありましたが、模試の成績は安定していました。本番では、受験したどの大学でも英語の時間が余りました。横浜市立のときもさほど難しいとは感じられなくて、自分の中では満点をとれたんじゃないかと思っています(笑)。

英語の楽しさ

宇佐美：私はグノに入るまで、英文を読んだら一度頭の中で日本語に置き換えて読んでいたので文章を読むのが遅かったんです。遅いだけじゃなくて、文の内容が断片的にしか頭に入ってこない感じでした。

それが、英語のまま読めるようになってきたら、内容がどんどん分かるようになって英語を読むのが楽しくなりました。

隠岐：僕も英文を読めるようになって楽しいと感じました。訳せるようになった時は楽しいとは感じませんでした。訳せるのと読めるのとは違って、読めるようになると、英語を読んでいることの抵抗感がなくなります。文全体が無理なく頭の中に入ってくるし、筆者の意図も自然に見えるようになってきます。それができるようになると、文を読むことを楽しめるようになります。

山崎：日本語の本を読んでいるときみたいに、英文を読んでその中に隠されている皮肉なども理解できるようにもなれて、そういうのはある意味、筆者と直接触れ合っている感じで、通訳の人なしに会話が成り立っている嬉しさだと思



隠岐 公大朗さん(横浜市立大・開成)

います。

もともと英語が苦手な英語単語ひとつ見るのも嫌だった自分が、医療に限らず、他の科学分野や社会科学系の話題など、いろいろ英語で読めるようになりました。グノでしっかりと土台を築けたと思います。

星野：私も、英文を英語のまま読めるようになったことが嬉しかったです。

それから、その時に話題になっているニュースも教材として扱われることが多かったのが新鮮でした。英語で新しい知識を得られるのは楽しいです。

黒畑：グノは教材が特別です。先生の解説も特別です。授業中に退屈することがありません。結構夢中になれて、こういう授業に毎週参加すること自体が楽しみでした。これからの勉強や研究などに活かせる力も身についたと思います。

グノーブルの数学・国語

山崎：数学でも高3の春期講習からグノでお世話になりました。数学に通っている桜蔭生が、「グノは数学もすごくいいよ」と勧めてくれましたし、私自身も英語でグノの良さを実感していたのでグノを選びました。



星野 夏希さん(横浜市立大・女子学院)

先生方が、宿題のチェックシートや一人ひとりの答案などを踏まえて解説を進めてくださったので、的が絞られていましたし、内容の濃い授業が受けられました。

隠岐：数学ではもっと先生との距離が近いと感じました。英語よりも生徒数が少ないということもあって、こっちの弱点を先生がすべて把握しています。これだけ距離が近いと、先生を使い倒せるころがあって、いつも先生に授業が始まる1時間も、ときには2時間も前から質問につきあってもらいました。

宇佐美：私は高1の時に古文でお世話になりました。1年間だけで劇的に力がつきました。高2、高3になってくると他の科目も難しくなってきますし、やることも多くなるので、高1の頃に受験レベルまで力を伸ばせたのはとても良かったと思っています。

グノーブルの先生について

山崎：どの先生も生徒一人ひとりと向き合ってくれましたし、弱点や課題を明確に提示してもらえました。

先生は皆熱心ですし、ご自身が授業を楽しんでいるのもグノの先生に共通しています。熱意は私た



黒畑 秀馬 さん(群馬大・開成)

ちにも伝わりますから、私たちも授業を楽しめましたし、適度に緊張感がある環境を作ってもらえたので、授業が始まると一瞬で全員が演習に取り組んで、だらだらしたところは全くありませんでした。

黒畑：すごい先生ばかりでした。教養が深く、授業に対する熱意にあふれていました。塾全体に、楽しいけど、引き締まった空気が満ちている感じで、毎回授業が楽しみでした。グノの授業を受けて、自分でも少し教養が身についたように思っていますし、人との向き合い方という意味でもすごく参考になりました。

星野：添削が本当に丁寧で、短い時間の中で細かい点まで見てくださったので、毎回自分の課題に気がつけました。名前を初日から覚えてもらえるし、名前を呼ばれることで自分が授業に参加しているという意識が保てたのも良かったと思います。

グノの先生は、私たちを見下ろすようなことは絶対にありません。私たちの成長を見守っていただいているのが感じられたので、私たちも期待に応えて頑張ろうという気持ちになれました。学年が上がるにつれてJG生がどんどん増えたのも、皆グノの雰囲気やグノの先生が好きだったからです。

隠岐：英語の先生は、ご自身が学ぶ意識も高いし、いいものを見抜く目も鋭かったと思います。授業で扱った文章のワンセンテンスに対して、「これはすごい文ですね」と、先生が唸っているようなこともありました。確かに、深く洞察にあふれた観察がその文に読み取れるんです。そんなことに気づける先生に僕は尊敬の気持ちを持っていました。

数学の先生は、生徒が出した解

答を見て、「こんな視点の考え方があるんだ」と感動していたり、とても柔軟でした。けっして偉そうにはされません。僕たちといっしょになって授業を楽しんでいる様子で、教室に一体感がありました。

宇佐美：最初のうちは先生に対して怖い印象を持っていました。あまりに博識ですごいということもありましたが、添削のコメントやアドバイスが、とても的を射ているので、自分のことを見抜かれている恐さを感じました。怖い印象はすぐに和らいだので質問にもたびたび行きましたが、最後まで、「見抜かれている」という気持ちは変わりませんでした(笑)。



星野 夏希 さん(横浜市立大・女子学院)

医学部の面接

山崎：あまり面接本を読んだりはしませんでした。その大学や医学部の志望理由、自分の長所や短所などの典型的な質問には簡潔に答えられるようにまとめていました。志望調書を提出する大学では、それについても聞かれると思っていたので、その準備もしていました。

ある私大で、得意科目を聞かれて「化学」と答えたところ、「医師になって患者さんに薬を処方する際、患者さんがあなた以上に知

識を持っていて、この薬は違うのではと聞かれたら、あなたはどうか対応しますか」という突拍子もない質問をされたことがあります。得意科目を答えて、なぜこんな展開になるのか驚きましたが、あまり気張ったことは言わず、落ち着いて自分の考えをありのまま伝えることを心掛けました。

黒畑：僕は医師を志望する理由と、その大学を目指す理由の2つだけ考えて面接に臨みました。面接は、人柄とか、コミュニケーション能力の面が大切だろうと考えていたので、特別な準備はしていません。なるべく誠実に受け応えをするようにしました。

星野：私はテレビや新聞で医療系のニュースを日頃からチェックしていました。あとは、大学の志望理由や医学部の志望理由を準備したのと、大手予備校の面接対策も経験しました。でも、用意していたものは何も聞かれず、「今、医学生で海外留学する人が減っていますが、あなたはしたいと思いませんか」というものや「苦手科目の克服法は」というものでした。

隠岐：面接は大丈夫だろうと少し甘く考えて臨んだところ、かなり焦る結果になってしまいました。前日に本を買って基本的なことに対する答えは用意していましたが、実際に聞かれたことは、「部活でのトラブルとその解決策や、あなたの立ち回り方」といったことでした。いっしょに受けた僕の友人は、「彼女はいますか?」と聞かれたそうです。変化球があることも想定しておかないと動揺してしまうと思います。

宇佐美：私も基本的なことは考えていました。あとは学校で面接練習をしていただいて、悪いところを指摘していただいたのですが、

「笑い過ぎるので注意下さい」と言われました。私の場合、緊張しすぎると、笑っている表情が出すぎるらしいんです(笑)。親でもいいので誰かを相手にして面接の練習をしておくことは大切だと思います。

東北大は少し変わっていて、1対1を5分、5回やるという形式です。医師志望理由と大学志望理由の他に、「人間関係がこじれた時にどうしますか」とか「重い病気の告知をどうしますか」など、答えにくい質問をされました。落ち着いて、その場で考えられることを誠実に話すことが大事だと思います。



山崎 恵梨子 さん(信州大・桜蔭)

後輩たちにアドバイス

宇佐美：入塾した時は下から2番目のクラスでした。「いつか上のクラスに入ってやろう」と思って頑張れたので伸びたと思っています。

受験期は焦ることもあると思いますが、できることを着々とやって行くことが大切です。目の前のことに集中していれば実力は伸びますから、周りにレベルが高い人がいても気にせずに、やるべきことを地道にやるのが大事だと思います。

星野：グノの場合、周りのレベルが高いので焦りがちになりますが、世間一般で見れば相当高い力を持っているのは間違いありません。焦らず勉強を続けて欲しいと思います。音読中心の復習をしっかりやっていれば必ず伸びます。

黒畑：僕は逆に、焦りを感じることがグノでの第一歩だと思っていました。そこから自分を追い込んでいけば、どんどん成績を上げられると考えていました。

隠岐：予想していた以上に、センター試験は慎重に対策を立てるべきだと思いました。医学部に必要な9割レベルは大変です。特に、国語と数学、英語の文法問題なども準備を怠らないことです。

黒畑：付け加えると、センターの古文・漢文は対策が遅れがちになるので、早めにやっておくと楽になると思います。

山崎：勉強方法は人それぞれだと思うので、自分にあったやり方を模索することが大事です。先生に早めに相談するのもいいと思います。

私は最後まで英語のクラスがa2*でかなり悔しい思いをしていました。それをバネにして勉強していたので力を伸ばすことができたと思います。グノはどのクラスの先生も信頼できますから、グノを信じて頑張りたいと思います。

*受験学年の英語は、a(最上位)、a1、a2、a3、a4、a5の設定でした。

東京 大学 理科I類 進学
開成
英語の「本質」に
はかんだ気がします!!
ありがとうございました!!

一橋 大学 経済学部 進学
桜蔭高校
毎週の授業が
とても楽しかったです
Gnobleで勉強出来て
本当に良かったです!

慶応義塾 大学 文学部 進学
好望
あの授業が
単語帳よりも
英語で話せるようになった。

慶応義塾 大学 文学部 進学
桐朋高校
Gノのおかげ
僕の合格!

東京 大学 文科一類 進学
筑波大附属駒場
Gnobleのおかげで
合格できたと思ってる。
特に、吉田先生は
敬語のスペシャリスト!

早稲田 大学 政治経済 進学
桜蔭
お世話になりました!!
本当にありがとうございました!!
Gnobleのおかげで合格できました!!

東京 大学 文科一類 進学
桜蔭高校
毎週の授業が
とても楽しかったです
Gnobleで勉強出来て
本当に良かったです!

慶応義塾 大学 法学部 進学
青山学院高等部
Gnobleのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

早稲田 大学 法学部 進学
東洋英和学院
Gnobleは最高です!!
愛しています!!
素晴らしい先生と仲間との
出会いに感謝!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 理二 進学
本郷
英語を得意科目にできた
のはGノのおかげです!
ありがとうございました!

東京 大学 理二 進学
開成
Gnoble
最高!!

東京 大学 文一 進学
芝
Gnobleのおかげで
力を飛躍的に高める
ことができた!!
ありがとうございました!

東京 大学 理物二類 進学
女子学院高校
Gnobleは素晴らしいです!!
本当にありがとうございました!!
お世話になりました!!
本当にありがとうございました!!

一橋 大学 商学部 進学
芝高校
Gノは英国・数学が
最高です。
ありがとうございました!

慶応義塾 大学 文学部 進学
開成高校
合格出来たのは、
アール先生の授業、
おかげです!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 理工 進学
駒場東邦
英語は
Gノで決まり!!

理学院 理学部 理学 進学
大塚 大学 理学部 進学
中野大付属
Gノのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

一橋 大学 法学部 進学
駒場東邦
入塾から2年、お世話に
なりました!
後輩のみはさん、
最後まで自分を見失わず
頑張った!!
Gnobleを信じて!!!

慶応義塾 大学 法学部 進学
女子学院
GNOBLEには、感謝して
しつこくせん!
私の英語力・国語力も上げ
てくれたGノは、最高の
トク
本当にありがとうございました!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
女子学院
Gノの英語は本当に
最高です。
ありがとうございました!

東京 大学 理物二類 進学
麻布高校
勝手に成績が
伸びた。

東京 大学 理一 進学
武蔵高校
Gノで学んだ英語は
受験勉強を越えて
種となりました。
本当に楽しかったです!

昭和三十九年 大学 医学部 進学
麻布高校
Gノの英語は
一生モノ!!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
青山学院高等部
Gノのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
女子学院
EGGS からの
大出世

東京 大学 文科三類 進学
麻布高校
最後に助けて
くれたのは
gnoの英語
でした。

京都 大学 工学部 進学
芙蓉
Gnoble
英数物最高!!

東京 大学 文科三類 進学
女子学院高校
GNOBLEを
信じていれば
1年間必ず受かる!!
ありがとうございました!

京都 大学 工学部 進学
女子学院
α4からでも
京大いけるよ!!
お世話になりました!!

一橋 大学 商学部 進学
東洋英和
3年間
お世話に
なりました!!
GNOのおかげで
合格できました!!

早稲田 大学 法学部 進学
早稲田高校
英語に対するモチベーションが
高くなりました。

慶応義塾 大学 経済学部 進学
東洋英和学院
Gノのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

早稲田 大学 経済学部 進学
女子学院
Gnobleのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
私立武蔵
Gノの英語は
革命的!!

東京 大学 理科二類 進学
駒場東邦
3年間ありがとうございました。
英語を英語で教わったように
なるGノのおかげです。
本当にありがとうございました!

一橋 大学 法学部 進学
駒場東邦
GNOBLEを
信じていれば
1年間必ず受かる!!
ありがとうございました!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
学習院高等科
Gnobleで学んだ
ことは、僕の人生
の種の部分!!

上智 大学 経済学部 進学
女子学院高校
GNOBLEで英語を学んだおかげで
英語への向き合い方が
180°変わりました。
「英語」を勉強するだけでなく、
絶対GNOBLEが大好き!!
先生方、本当にありがとうございました!

東京 大学 文科三類 進学
開成
精神的な面をそそいでくれた。
本当にありがとうございました!!
Gノに感謝!!

東京 大学 文科二類 進学
女子学院
Gノに出会えたのが
本当に良かったです!!
ありがとうございました!!

早稲田 大学 経済学部 進学
女子学院
Gnobleのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 理科一類 進学
開成高校
Gノは数学もイネ!

早稲田 大学 経済学部 進学
女子学院
全科目Gノのおかげです。
本当にありがとうございました!

東京 大学 理科二類 進学
雙葉
毎週のGnobleの授業が
大好きでした。Gノのおかげで
本当に合格できました。
ありがとうございました!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
女子学院
英語の自信ができました!
本当にありがとうございました!!
(お世話になりました)

東京工業 大学 第四類 進学
豊島岡女子学園
Gnobleは神
出会えた!

慶応義塾 大学 経済学部 進学
女子学院
Gnobleの授業を
受けることができて、
本当に良かったです!!
ありがとうございました!!

東京 大学 文科三類 進学
開成
Gnobleのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 文科一類 進学
開成
α4でも
受かりました!
Gノのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

早稲田 大学 経済学部 進学
女子学院
Gnobleのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 理科一類 進学
筑波大附属駒場
EGGSのおかげで、
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 文科二類 進学
筑波大附属駒場
EGGSのおかげで、
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 理II 進学
駒場東邦
英語を究めれば
東大は受かる!
Gノで!

大阪 大学 外国語学部 進学
洗足学園
合格した時は、
Gノの先生達の授業が
凄かったです!!
大好きです!!
ありがとうございました!!

東京 大学 文科二類 進学
桜蔭高校
Gノのおかげで
合格できました!!
本当にありがとうございました!!

東京 大学 文III 進学
駒場東邦
最高です
Gノありがとうございました!!

◎表紙の写真とこのページのメッセージは、
受験報告会(2015年3月)の記録から
編集部が任意に選んだものです。